

授業公開および発表会のご案内(訂正版)

平成25年10月25日
江戸川区立春江小学校

研究主題 「大好き春江 守ろう広げよう交通安全」

本日の予定

1	公開避難訓練	想定「近隣の住宅で火災発生」	13:35~13:40	(教室前で人員確認)
2	公開授業		13:45~14:30	(各教室)
3	協議・講評		14:45~16:15	(体育館)
	研究経過報告	本校主幹教諭		山口 昇
	授業自評(5年の実践から)	本校主任教諭		小菅 洋次
	指導講評	東京都教育庁指導部指導企画課		統括指導主事 和田 栄治 様

本日の公開授業

学級等	指導者	場所	教科等	題材名等	目標
赤コース	内藤貴子	1年1組	学級活動	ぼくらあんぜん あるきたい	Ⅱ-1 道路の歩行と横断及び交通機関の利用 道路の役割・きまりや道路における様々な危険について理解し、安全な歩行ができるようにする。
緑コース	高橋幸恵 浦西洋子	1年2組			
黄コース	岡田理恵 宮澤篤史	1年4組			
2年1組	菊池奈緒子	2年1組	学級活動	見えない恐怖! 見える安心	Ⅱ-1 道路の歩行と横断及び交通機関の利用 道路の役割・きまりや道路における様々な危険について理解し、安全な歩行ができるようにする。
2年2組	池崎 誠	2年2組			
2年3組	江崎美緒	2年3組			
2年4組	平山 綾	2年4組			
2年5組	大熊寿乃	2年5組			
3年1組	石井早苗	3年1組	学級活動	春江の町のかくれ れた危険を見つけよう ～自転車の安全な 走行～	Ⅱ-2 自転車の安全な利用と点検・整備 自転車の安全な利用・点検や整備について理解を深め、交通のきまり・約束等を守って安全な乗車ができるようにする。
3年2組	高橋孝太	3年2組			
3年3組	植村耕作	3年3組			
3年4組	下唐湊みゆき	3年4組			
4年1組	下澤久美子	4年1組	学級活動	自転車の交通安全 について考えよう	Ⅱ-2 自転車の安全な利用と点検・整備 自転車の安全な利用・点検や整備について理解を深め、交通のきまり・約束等を守って安全な乗車ができるようにする。
4年2組	金子大輔	4年2組			
4年3組	板橋智恵	4年3組			
4年4組	山口 昇	4年4組			
5年1組	小菅洋次	5年1組	総合的な学習 の時間	地域交通安全 マップを作ろう	Ⅱ-4 交通事故防止と安全な生活 地域の交通安全に関する諸機関や団体が行っている対策や活動を理解し、安全な交通社会を築くために、積極的に参加できるようにする。 身近に潜む交通事故が起こりそうな場所を調べ、交通安全の意識を高める。
5年2組	穴井佑未子	5年2組			
5年3組	柳下昌美	5年3組			
5年4組	若山俊彦	5年4組			
6年1組	佐藤美佳	6年1組	学級活動	あ、あぶない! その乗り方	Ⅱ-2 自転車の安全な利用と点検・整備 自転車の安全な利用・点検や整備について理解を深め、交通のきまり・約束等を守って安全な乗車ができるようにする。
6年2組	栗原麻美	6年2組			
6年3組	尾形 寛	6年3組			
6年4組	和田悠史	6年4組			

1. 日時 10月25日(火) 13:35~13:40 行事0.5
2. 目標 近隣民家の火災発生時における規律ある行動を身に付ける。
3. 想定 校舎北側の民家より火災発生【予告有り】
4. 指導内容

事前指導	○火災時の避難経路の確認や行動の仕方を確認する。	
13:35	<p>1. 通報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常ベル(13:35) ・放送 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>訓練。訓練。避難訓練。ただいま学校北側の民家より火災が発生しました。学習や作業をやめて静かに放送を聞きなさい。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・カーテンをまとめ窓を閉める。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>燃え広がるおそれがありますので、一時避難場所へ避難します。先生の指示に「おかしも」を守り、すみやかに避難します。本日は訓練のため、廊下までの避難です。避難はじめ。</p> </div> <p>2. 避難開始・集合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廊下に避難 ・教室前に男女一列ずつで整列する。 <u>教室側の廊下に整列して座る。</u> ・担任が人員確認後、異常がなければ、 頭上横向きにクラスの旗を掲げて学年主任に伝える。 ・保健室に児童がいる等異常がある場合は、その旨を学年主任に伝える。 ・養護教諭は保健室の状況を職員室に伝える。 ・学年主任は各クラスの状況を確認して副校長に報告する。 <p>3. 講評(学校長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放送にて行う。 <p>4. 教室に戻る</p> <p> ※各クラス、それぞれ教室内へ入る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作業をやめ、口を閉じ放送の指示に従い速やかに行動する。 《教室》放送を聞いて、防災頭巾をかぶる。 ・放送に従って、廊下に避難し素早く整列する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; text-align: center;"> <p>各 ク ラ ス ・ 男 女 1 列</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・口を閉じてしっかり話を聞く。
事後指導	○約束を守って避難行動ができたか話し合う。	

<p>【トイレ確認 年間固定】プレハブ主事さん</p> <p>1階東(主事) 1階西(主事)</p> <p>2階東(丸山) 2階西(主事)</p> <p>3階東(熊川) 3階西(藤丸)</p>	<p>【係分担・準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・放送(副校長)()・ハンドマイク準備() ・救護(養護教諭) ※西階段下の整とん ・出席簿 ヘルメット リュック 学級旗
--	---

<p>【避難方法・報告】 各教室前に男女1に並ぶ。</p> <p> 学年主任に報告「〇年〇組 異常なし」「保健室に〇名」</p> <p> 副校長(本部)へ報告「〇年 異常なし」</p>	
--	--

はじめに

江戸川区立春江小学校 校長 市原 俊司

子供たちの安全は、学校・保護者・地域の人々の切なる願いです。

子供たちが楽しく生きる春江の地域は、安全で安心な環境を守っていがなければなりません。しかしながら、子供たちが交通事故やひやり体験に出会っているのも事実です。

子供たちの安全確保は、本校にとって喫緊の課題の一つです。

平成 25 年度、東京都教育委員会から、安全教育推進校として、研究する機会をいただきました。テーマを「大好き春江 守ろう広げよう交通安全～大好きなこの町で安全にみんなが楽しく生活できるように～」として、研究を深めてきました。

私たちが研究して一番感じたことは、保護者の皆様、地域の方々が思う子供たちへの愛情の深さです。

PTAをはじめ、学校応援団・おやじの会・各町会・民生児童委員・青少年委員・小岩警察署・小岩消防署・その他の地域関係団体など、いろいろな組織の皆様が子供たちの交通安全のためにご尽力くださいました。

本校の研究は、まだ始まったばかりです。研究を進めながら、次の課題がまた見えてきたところです。しかし、子供たちの命を守ろうとする学校・保護者・地域の連携の強さは、他の学校に負けないものと思っています。

一つ一つわかりやすくていねいにご指導してくださった、東京都教育庁指導部主任指導主事の石田 周様をはじめ、指導企画課統括指導主事の和田 栄治様、同指導主事の千葉かおり様、本日を迎えられるのは、ひとえに、皆様のおかげであります。誠にありがとうございます。

平成 25 年 10 月 25 日

研究経過報告

1. 研究主題

大好き春江 守ろう広げよう交通安全

2. 主題設定の理由

(1) 地域・学校と児童の実態

学校の周りに目を向けると、この地域には公園や緑が多く、昔からの畑もあちこちに残っている。人々が豊かに暮らす春江の町を、子供たちは大好きである。

反面、地域は大きな幹線道路に囲まれており、学校のすぐ前にも交通量の多い道路が走っている。幸い命に係わる大きな事故はここ何年も起きていないが、軽い接触事故は毎年のように数件起きている。

また、昨年度から校舎改築工事が始まり、校庭がなく、休み時間を教室で過ごす子供たちは、体を思いっきり動かすことができず、つい教室や廊下で走り回ってしまうということが多くなっている。4月以降、継続的に指導を続ける中で、少しずつ落ち着いて生活できるようにはなってきた。しかし、廊下を走ったり教室から廊下に急に飛び出したりする子供は今でも時々見られ、危険を予測し回避するという意識や力は十分に育てられているとは言えない。

(2) 大好き春江 守ろう広げよう交通安全

大好きなこの町で、安全にみんなが楽しく生活できるようにしたいという子供たちの願いをもとに、交通安全への意識を高め、危険を予測し回避する力を育てたいと考えた。さらに、地域やPTAの協力も得ながら、子供たちの交通安全に対する取り組みを学校外にも広げ、事故のない豊かで安全な町づくりを目指したい。

3. 研究の内容

子供たちの交通安全への意識を高めるために、昨年までの取り組みに加え、次のような新たな試みを行った。

(1) 学校安全計画の見直しと全体計画、年間指導計画の作成

本校にはこれまで、学校教育活動全体の中で総合的に安全教育をとらえた全体計画はなかった。また、3領域や「日常」、「定期」、「特設」を系統的に位置づけた年間指導計画もなかった。いずれも、生活指導の中での狭い範囲のものであった。今回、安全教育推進校として研究を進めるに当たり、計画的に安全教育を行うためにそれらを見直し、作成することにした。

(2) 体験型安全指導を増やす

これまで毎年行ってきた「避難訓練」、「セーフティ教室」(1、2、3年生)、「親子交通安全教室」(1、2年生)、「自転車運転免許教室」(3年生)、「薬物

乱用防止教室」(6年生)に加え、「自転車シミュレーター安全教室」(5年生)、「歩行シミュレーター安全教室」(4年生)、「救命入門コース」(6年生 昨年度から)を行うことにした。体験型の学習を増やすことで、子供たちが一層興味を持って学習に取り組めると考えた。

(3) 交通安全標語コンクールへの参加

交通安全に対する意識を高めるために、交通安全協会や江戸川区で行っている交通安全標語コンクールへの参加を子供たちに呼び掛けた。また、PTAが行った「交通安全のぼり旗」作りでも、そこに乗せる標語を子供たちや家庭から募集した。

(4) 道路の正しい歩行指導の充実

体育の授業でお借りしている春江中学校の第2校庭に行く、休み時間に春江の森公園に行くなど、集団で道路を歩く機会が増えたため、歩行指導の時間を多くとり、ルールやマナーを守って安全に気を付けて歩くことを徹底した。

(5) 地域・PTAの協力

地域の樁駐在所警察官は、交通安全教室や自転車運転免許教室の他にも、学校の様々な安全教育活動に参加し、指導してくれている。また、毎日の登校時や全校遠足での安全見守りもしてくれている。

PTAは、毎日の登校時や全校遠足での見守り、休み時間に春江の森公園に行く際の見守り、6年生のボランティア活動での引率をしてくれている。交通安全教室や自転車運転免許教室でも、様々なお手伝いをしてくれている。また今年度は、子供たちの安全を守るための活動の一環として、「交通安全のぼり旗」作成に取り組んでくれた。

これら地域、PTAの方々の献身的な協力は、本校の安全教育だけでなく教育活動全体にとって大きな強みである。

(6) 環境整備

改築工事のために校舎内で過ごすことが多くなった子供たちの安全意識を高めるために、歩行のし方や安全を呼びかける掲示物を各教室に統一して貼るようにした。

4. 今年度の経過

4月 集団下校(1年生)

道路の歩行指導

登校班集会

5月 全校遠足の歩き方指導

交通標語コンクール

6月 自転車シミュレーター安全教室(5年生)

- 7月 歩行シミュレーター安全教室（4年生）
交通安全のぼり用標語作り
集団下校
- 9月 交通安全のぼり設置
安全教育校内研究授業（4年4組）
- 10月 親子交通安全教室（1、2年生）
自転車運転免許教室（3年生）
安全教育推進校発表
- 3月 登校班集会・集団下校

5. 成果と課題

（1）成果

- ・今年度は、信号無視や道路への飛び出しなど、交通ルール違反による事故は減っている。子供たちの交通安全に対する意識が高まった結果である。
- ・校舎内での生活の仕方が落ち着いてきており、廊下を走る児童が減ってきている。また、年度当初多かった下校時、校門から外への飛び出しもほとんど見られなくなった。安全指導が、校舎内の生活にも生きている。
- ・春江中学校や春江の森公園への移動が、整然と行えるようになってきた。

総じて、4月以降の安全指導の積み重ねにより、児童の交通安全に対する意識は確実に高まっていると言える。

（2）課題

- ・学校生活の中で、廊下への飛び出しなど、ひやりとさせられることが今でも時々ある。安全意識を高める指導を、今後も継続して行っていかなければならない。
- ・下校後の生活の中に、交通安全の意識をさらに広げていきたい。
- ・自転車運転免許教室をさらに子供たちの生活の中に生かすために、ヘルメットの着用や何年生から乗っていいのかなどの自転車利用の決まりを確定する。
- ・児童の交通安全に対する意識や取り組みを、さらに地域に広げてゆく活動を工夫する必要がある。

江戸川区立春江小学校 学校安全計画 全体計画



江戸川区立春江小学校 学校安全計画 年間指導計画

		4月	5月	6月	7月	8・9月	
各学年共通	I 生活	日常	登下校の安全(学級活動)1-①② 校内での安全な歩行(学級活動)2-①②④ 「春江小のきまり」を活用した学校生活のルールの学習(学級活動)2-①②④	道具の正しい使い方(学級活動)2-③	雨の日の校舎内での過ごし方(学級活動)2-②④ 通学路の危険箇所の確認 プールのきまり(学級活動)2-④	不審者被害防止「いかのおすし」の徹底(学級活動)4-①②③⑦	校舎内の歩行の決まり・校内での安全(学級活動)2-④
		定期				夏休み事前指導(学級活動)3-①④	
		特設					不審者対応安全教直(学校行事)2-⑤⑥⑦
	II 交通	日常	春江中への歩き方(体育)1-①	交通標識作り(学級活動)4-④		交通標識作り(学級活動)4-④	
		定期	登校遠足会(学校行事)1-①②⑤ 春の全国交通安全運動について(餅りの会)	園前川での全校通足の歩き方(学校行事)1-①⑥		夏休み事前指導(学級活動)1-④③	秋の全国交通安全運動について(餅りの会)
		特設					
	III 災害	日常	避難の仕方・避難の確認(「おかしもしも」の避難)1-①、2-① 火災を想定した避難訓練(学校行事)1-①	授業中の地震を想定した避難訓練(学校行事)2-①	大津波を想定した高所への避難訓練(学校行事)2-①②	風水害を想定した集団下校訓練(学校行事)2-①	大地震を想定した引き渡し訓練(学校行事)2-①④
		定期					
		特設				「地震と安全」を活用した安全学習(学級活動)2-①-④	「地震と安全」を活用した安全学習(学級活動)2-①-④
1・2年	I 生活	日常					
		定期					
		特設			セーフティ教直(1, 2, 3年)3-①②③④		
	II 交通	日常					
		定期	登下校時の交通安全(学級活動)1-① 集団下校(1年)1-①②⑤	横断歩道と信号機、道標標識(学級活動)1-③	雨の日の交通安全(学級活動)1-④	自転車に乗る時の約束(学級活動)2-①③	横断歩道の渡り方(学級活動)1-③
		特設					
	III 災害	日常					
		定期				台風や嵐の対応(学級活動)4-①	電車が来た時の対応(学級活動)4-①
		特設					
3・4年	I 生活	日常	廊下の正しい歩き方(学級活動)1-④ 休み時間の体育館の安全な使い方(学級活動)1-③④	家庭や地域の安全(餅りの会)2-②、4-①②③ 春江の森公園への正しい歩き方(学級活動)1-⑤			
		定期					
		特設			セーフティ教直(1, 2, 3年)3-①②③④		
	II 交通	日常					
		定期	通学路の安全について(学級活動)1-②	道標標識の意味(学級活動)1-①	雨の日の交通安全(学級活動)1-④	自転車に乗る時の約束(学級活動)2-①③ 歩行シミュレーター安全教直(4年)1-①③	横断歩道の渡り方(学級活動)1-③
		特設					
	III 災害	日常				風水害時の危険(餅りの会)4-①	
		定期					
		特設					
5・6年	I 生活	日常					
		定期					
		特設					
	II 交通	日常					
		定期	通学路の安全について(学級活動)1-②	信号機と道標標識(学級活動)1-①	雨の日の交通安全(学級活動)1-④ 自転車シミュレーター安全教直(5年)(学校行事)2-①③	自転車の正しい乗り方と駐輪の仕方(学級活動)2-①③⑥	横断歩道の渡り方(学級活動)1-③
		特設					
	III 災害	日常					
		定期					移動避難先での避難訓練(0年)(学校行事)1-①、2-①、7-①
		特設					「3.11を忘れない」を活用した学習(6年)(社会)2-①②④
教職員研修 その他		安全教育プログラムについて 危機管理マニュアルについて 校内安全体制について 校内安全点検	校内安全点検	プールの安全指導・管理について 心肺蘇生法講習会、AED研修 校内安全点検	校内安全点検	校内安全点検	

特別活動（学級活動）学習指導案

学校名	江戸川区立 春江小学校
日時	平成25年 10月 25日（金） 午後1時45分から午後2時30分
場所	1年1組教室 赤コース信号付近
対象	赤コース児童 19名
授業者	内藤 貴子

1 題材名 「ぼくら あんぜん あるきたい」

2 目標

Ⅱ-1 道路の歩行と横断及び交通機関の利用

道路の役割・きまりや道路における様々な危険について理解し、安全な歩行ができるようにする。

3 児童の実態

学区域が広く、登下校に20分以上かかる児童もいる。また、登校は集団登校で行い、PTAの旗振りの協力もあり、比較的安全にできている。下校は学年でコースごとに行っているが、1年生のみで帰ることになり、1学期は安全面で不安があった。そこで、体育の学習で春江中学校に行くときや休み時間に春江の森公園へ歩いていく際、安全な歩き方を指導してきた。2学期に入り、安全に下校する意識が強くなってきた。

赤コースは、3つのコースの中で、一番遠く、移動時間が長い。コースの中に、袋小路がたくさんあり、自転車が飛び出してくることもある。また、見通しの悪い住宅街や、京葉道路の下にある大きな信号など、危険を伴う場所がいくつもある。

4 本題材と「日常的な安全指導」「定期的な安全指導」「特設する安全学習」との関連

「日常的な安全指導」として、朝の会、帰りの会、学級活動の時間などにおいて、登下校に決められた通学路を歩くことや交通ルールについて指導を行っている。

「定期的な安全指導」として、毎月ワークシートを使って、安全な歩き方などについて、指導を行っている。

「特設する安全学習」として、親子交通安全教室を行い、交通ルールを学び、自分の身の安全を守れるように、指導している。

クラス毎に並んで歩いていく場面では比較的安全だが、少人数での歩行や一人での歩行となると安全に対する意識が薄れ、飛び出しや不注意が多くなりがちである。そこで、少人数や一人での歩行の安全を徹底する必要がある。本時ではコース毎に分かれ、少人数での安全な歩行を目指す。

5 目標に迫るための指導方法の工夫

登校時は、PTAの協力や日直の教諭が、校門で出迎え、安全な登校を見守っている。下校時には、担任が校門に立ち、安全に下校できるように、声をかけている。毎月の安全指導日で、月ごとに定められたテーマに沿って、学級指導を行っている。

本授業では、日常登下校で使用している道路の注意すべき点と、安全に歩くためにはどのようにしたらよいかという点について話し合い、実際に少人数で歩行する。また、地域ボランティアである学校応援団の方や小松川警察署の方に協力していただき通学路の各地点に立って声をかけてもらう等、地

域や警察ぐるみで見守っているのだということを児童に伝えるようにする。

(1) 学習グループの工夫

下校コースごとのグループに分けることによって、より自分の通学路の特徴を知ることができる。

(2) 通学路の写真の提示・話し合い

実際の通学路の写真を提示することで、危険個所をイメージしやすくすることができる。

(3) 少人数での実地歩行体験

実際に歩くことで、より危険個所について知ることができる。

(4) 学校応援団・小松川警察署の協力

大人の目を増やすことによって、実地歩行体験を安全に行うことができる。

6 本時の指導

(1) ねらい

- ・赤コースの危険な場所について知り、道路のきまりを守り、安全に歩こうとする態度を養う。

【Ⅱ-1-②】

(2) 展開

	○主な学習活動	◎支援・留意点 ■評価（評価方法）
導入	○「あつあぶない。」の写真を見て、なぜ危ないのかを話し合う。	◎赤コースの危険な場所の写真をテレビに映す。
展開	○危ないのに、なぜこのような歩き方をしてしまったのかを話し合う。 ○どうすればよかったか、話し合う。 ○実際のコースを歩く。 ○注意するところを確認する。	■危険な場所や行動を理解してそれをしてしまう理由について考え、発言している。（発言） ◎場面ごとに考え、発表させる。 ◎注意するところを確認しながら歩かせる。 ◎小松川警察の方や学校応援団の方にコース内の危険な個所に立ってもらい、安全を確保する。
まとめ	○実際に歩いてみての感想を話し合う。	◎上手に歩けたところ、歩いてみて気を付けたらいいと思うところなどを考えさせる。 ■自分の日ごろの登下校の仕方を振り返り、これから気を付けたいことを自分なりにワークシートに記述している。（ワークシート）

(3) 評価

- ・赤コースの危険な場所について知り、道路のきまりと安全に歩こうとする態度がみられたか。

特別活動（学級活動）学習指導案

学校名	江戸川区立 春江小学校
日時	平成25年 10月 25日（金） 午後1時45分から午後2時30分
場所	1年2組教室 緑コース信号付近
対象	緑コース児童 70名
授業者	冨樫幸恵 浦西洋子

1 題材名 「ぼくら あんぜん あるきたい」

2 目標

Ⅱ-1 道路の歩行と横断及び交通機関の利用

道路の役割・きまりや道路における様々な危険について理解し、安全な歩行ができるようにする。

3 児童の実態

学区域が広く、登下校に20分以上かかる児童もいる。また、登校は集団登校で行い、PTAの旗振りの協力もあり、比較的安全にできている。下校は学年でコースごとに行っているが、1年生のみで帰ることになり、1学期は安全面で不安があった。そこで、体育の学習で春江中学校に行くときや休み時間に春江の森公園へ歩いていく際、安全な歩き方を指導してきた。2学期に入り、安全に下校する意識が強くなってきた。

緑コースは、校門を出てすぐのところには信号機・横断歩道はあるが、道幅が広く、渡るのにとっても時間がかかる交差点がある。また、交通量が多いが、信号機がない横断歩道もある。工事をしている時には、通学路が進入禁止になって迂回することになったり狭くなったりすることもあり、危険である。しかし、ガードレールがない歩道でも、車道にはみ出ずに歩くことができる児童が多い。

4 本題材と「日常的な安全指導」「定期的な安全指導」「特設する安全学習」との関連

「日常的な安全指導」として、朝の会、帰りの会、学級活動の時間などにおいて、登下校に決められた通学路を歩くことや交通ルールについて指導を行っている。

「定期的な安全指導」として、毎月ワークシートを使って、安全な歩き方などについて、指導を行っている。

「特設する安全学習」として、親子交通安全教室を行い、交通ルールを学び、自分の身の安全を守れるように、指導している。

クラス毎に並んで歩いていく場面では比較的安全だが、少人数での歩行や一人での歩行となると安全に対する意識が薄れ、飛び出しや不注意が多くなりがちである。そこで、少人数や一人での歩行の安全を徹底する必要がある。本時ではコース毎に分かれ、少人数での安全な歩行を目指す。

5 目標に迫るための指導方法の工夫

登校時は、PTAの協力や日直の教諭が、校門で出迎え、安全な登校を見守っている。下校時には、担任が校門に立ち、安全に下校できるように、声をかけている。毎月の安全指導日で、月ごとに定められたテーマに沿って、学級指導を行っている。

本授業では、日常登下校で使用している道路の注意すべき点と、安全に歩くためにはどのようにしたらよいかという点について話し合い、実際に少人数で歩行する。また、地域ボランティア

アである学校応援団の方や小松川警察署の方に協力していただき通学路の各地点に立って声をかけてもらう等、地域や警察ぐるみで見守っているのだということを見守る児童に伝えるようにする。

(1) 学習グループの工夫

下校コースごとのグループに分けることによって、より自分の通学路の特徴を知ることができる。

(2) 通学路の写真の提示・話し合い

実際の通学路の写真を提示することで、危険個所をイメージしやすくすることができる。

(3) 少人数での実地歩行体験

実際に歩くことで、より危険個所について知ることができる。

(4) 学校応援団・小松川警察署の協力

大人の目を増やすことによって、実地歩行体験を安全に行うことができる。

6 本時の指導（第1時／1時間）

(1) ねらい

- ・緑コースの危険な場所について知り、道路のきまりを守り、安全に歩こうとする態度を養う。

【Ⅱ-1-②】

(2) 展開

	○主な学習活動	◎支援・留意点 ■評価（評価方法）
導 入	○「あつあぶない。」の写真を見て、なぜ危ないのかを話し合う。	◎緑コースの危険な場所の写真をテレビに映す。
展 開	○危ないのに、なぜこのような歩き方をしてしまったのかを話し合う。 ○どうすればよかったか、話し合う。 ○実際のコースを歩く。 ○注意するところを確認する。	■危険な場所や行動を理解してそれをしてしまう理由について考え、発言している。（発言） ◎場面ごとに考え、発表させる。 ◎注意するところを確認しながら歩かせる。 ◎小松川警察の方や学校応援団の方にコース内の危険な個所に立ってもらい、安全を確保する。
ま と め	○実際に歩いてみての感想を話し合う。	◎上手に歩けたところ、歩いてみて気を付けたらいいと思うところなどを考えさせる。 ■自分の日ごろの登下校の仕方を振り返り、これから気を付けたいことを自分なりにワークシートに記述している。（ワークシート）

(3) 評価

- ・緑コースの危険な場所について知り、道路のきまりと安全に歩こうとする態度がみられたか。

特別活動（学級活動）学習指導案

学校名	江戸川区立 春江小学校
日 時	平成25年 10月 25日（金） 午後1時45分から午後2時30分
場 所	1年4組教室 黄色コース信号付近
対 象	黄色コース児童 53名
授業者	岡田 理恵 宮澤 篤史

1 題材名 「ぼくら あんぜん あるきたい」

2 目標

Ⅱ-1 道路の歩行と横断及び交通機関の利用

道路の役割・きまりや道路における様々な危険について理解し、安全な歩行ができるようにする。

3 児童の実態

学区域が広く、登下校に20分以上かかる児童もいる。また、登校は集団登校で行い、PTAの旗振りの協力もあり、比較的安全にできている。下校は学年でコースごとに行っているが、1年生のみで帰ることになり、1学期は安全面で不安があった。そこで、体育の学習で春江中学校に行くときや休み時間に春江の森公園へ歩いていく際、安全な歩き方を指導してきた。2学期に入り、安全に下校する意識が強くなってきた。

黄色コースは、ガードレールのない歩道が続く場所がある。交通量は少ないが、道幅の狭い歩道を多数の児童が歩くので、道路に飛び出しやすく、比較的長い距離を歩くので、遊びながら下校する児童も見られる。また、他のコースに比べ、信号機のある交差点を渡る児童が多く危険である。

4 本題材と「日常的な安全指導」「定期的な安全指導」「特設する安全学習」との関連

「日常的な安全指導」として、朝の会、帰りの会、学級活動の時間などにおいて、登下校に決められた通学路を歩くことや交通ルールについて指導を行っている。

「定期的な安全指導」として、毎月ワークシートを使って、安全な歩き方などについて、指導を行っている。

「特設する安全学習」として、親子交通安全教室を行い、交通ルールを学び、自分の身の安全を守れるように、指導している。

クラス毎に並んで歩いていく場面では比較的安全だが、少人数での歩行や一人での歩行となると安全に対する意識が薄れ、飛び出しや不注意が多くなりがちである。そこで、少人数や一人での歩行の安全を徹底する必要がある。本時ではコース毎に分かれ、少人数での安全な歩行を目指す。

5 目標に迫るための指導方法の工夫

登校時は、PTAの協力や日直の教諭が、校門で出迎え、安全な登校を見守っている。下校時には、担任が校門に立ち、安全に下校できるように、声をかけている。毎月の安全指導日で、月ごとに定められたテーマに沿って、学級指導を行っている。

本授業では、日常登下校で使用している道路の注意すべき点と、安全に歩くためにはどのようにしたらよいかという点について話し合い、実際に少人数で歩行する。また、地域ボランティアである学校応援団の方や小松川警察署の方に協力していただき通学路の各地点に立って声をかけてもらう等、地域や警察ぐるみで見守っているのだということを児童に伝えるようにする。

(1) 学習グループの工夫

下校コースごとのグループに分けることによって、より自分の通学路の特徴を知ることができる。

(2) 通学路の写真の提示・話し合い

実際の通学路の写真を提示することで、危険箇所をイメージしやすくすることができる。

(3) 少人数での実地歩行体験

実際に歩くことで、より危険箇所について知ることができる。

(4) 学校応援団・小松川警察署の協力

大人の目を増やすことによって、実地歩行体験を安全に行うことができる。

6 本時の指導

(1) ねらい

・黄色コースの危険な場所について知り、道路の決まりを守り、安全に歩こうとする態度を養う。

【Ⅱ-1-②】

(2) 展開

	○主な学習活動	◎支援・留意点 ■評価（評価方法）
導入	○「あっあぶない。」の写真を見て、なぜ危ないのかを話し合う。	◎黄色コースの危険な場所の写真をテレビに映す。
展開	○危ないのに、なぜこのような歩き方をしてしまったのかを話し合う。 ○どうすればよかったか、話し合う。 ○実際のコースを歩く。 ○注意するところを確認する。	■危険な場所や行動を理解してそれをしてしまう理由について考え、発言している。（発言） ◎場面ごとに考え、発表させる。 ◎注意するところを確認しながら歩かせる。 ◎小松川警察の方や学校応援団の方にコース内の危険な個所に立ってもらい、安全を確保する。
まとめ	○実際に歩いてみての感想を話し合う。	◎上手に歩けたところ、歩いてみて気を付けたらいいと思うところなどを考えさせる。 ■自分の日ごろの登下校の仕方を振り返り、これから気を付けたいことを自分なりにワークシートに記述している。（ワークシート）

(3) 評価

・黄色コースの危険な場所について知り、道路のきまりと安全に歩こうとする態度がみられたか。

特別活動（学級活動）学習指導案

学校名	江戸川区立 春江小学校
日 時	平成25年 10月 25日（金） 午後1時45分から午後2時30分
場 所	2年1組教室
対 象	2年1組児童 31名
授業者	菊池 奈緒子

1 題材名 「見えない恐怖！見える安心」

2 目標

Ⅱ－1 道路の歩行と横断及び交通機関の利用

道路の役割・きまりや道路における様々な危険について理解し、安全な歩行ができるようにする。

3 児童の実態

本学級の児童は、集団登校をしているが、班によっては広がって歩いたり、前の人を抜かして校門まで走ってきたりする児童がいる。仮設校舎のため、体育の授業で中学校に移動するときは、私語厳禁の約束を守り、歩き方や横断歩道の渡り方等に細心の注意をはらって、2列、4列にと臨機応変に行動している。

一方、下校時は、左右の安全を確認していなかったり、点滅している青信号を無視して渡ったりしている児童がいる。1日の学校生活が終わった気の緩みや早く友達と遊びたい、習い事に行きたい等の気持ちから、安全面に不注意な児童が多い。また、家が近い友だちや仲のよい友だちと広がって歩いたり、曲がり角から急に飛び出したりする危険な行動が多く見られる。

日々の安全指導や交通安全教室に加えて、今回の授業を機会に、道路のきまりと安全な歩行の仕方について、再確認し、安全に登下校できる児童に育てていきたい。

4 本題材と「日常的な安全指導」「定期的な安全指導」「特設する安全学習」との関連

(1) 「日常的な安全指導」との関連

学区内で起きた交通事故の情報が入ってきた時は、即時、朝の会や帰りの会で指導をしている。また、基本的事項の繰り返しや「定期的な安全指導」で取り上げた内容の確認、その時々情報をもとに適切な指導を行い、「自分の安全を守るのは自分である」という意識の喚起や定着を図っている。

(2) 「定期的な安全指導」との関連

月1回の安全指導日に、その学年で「必ず指導する基本的事項」を取り上げ、日々の行動を振り返らせながら、正しい歩き方を実演させたり、ワークシートに記入させたりして確認している。

(3) 「特設する安全学習」との関連

セーフティ教室や親子交通安全教室を計画的に行い、誘拐やいたずら目的のつれさりや交通事故から身を守る意識を高めている。

本時では、普段、何気なく見ている道路標識の意味や自動車の運転席から見える範囲を確認したり、学区域内で最も事故が多い場所の写真を例示して、歩くときの注意事項を再確認したりして、いつでも正しく安全に歩行できるようにする。

5 目標に迫るための指導方法の工夫

- ・学習内容を理解しやすいように、視覚的に捉えやすい映像を活用する。
- ・地元の駐在警官の協力を得て、児童の実態に応じた映像教材を作成する。
- ・通学路の危険な箇所を確認するために、その場所の写真や道路標識を提示する。
- ・安全に対する意識を高めるために、学習のまとめとして、安全に関する標語を作る。

* 参考資料 (安全指導資料)

まもってわたるよ
しんごうき 5 月 2 学年
() ねん () くみ

なまえ



① とまって まっていている うんてんしゅさんに
ひとこと いいましょう。



② つぎの あいすは どちらのことでしょうか。
ただしいほうに ○をつけましょう。



() とびだせ

() いちどとまれ

() わたるな

() いそいでわたれ



6 本時の指導（第1時／1時間）

(1) ねらい

- ・道路のきまりを理解したり、登下校時に安全に正しく歩行したりできるようにする。
- ・危険な行動を回避する方法が分かり、安全な行動をしようとする態度を身に付ける。

【Ⅱ-1-①②③】

(2) 展開

	○主な学習活動	◎支援・留意点 ■評価（評価方法）
導 入	<p>○親子交通安全教室で学んだことを振り返る。</p> <p>○平成25年度の都内（小学生）の交通事故発生件数と事故原因を知る。</p> <p>○本時の学習内容を知り、めあてを確かめる。</p> <p>登下校時や放課後の安全な歩き方をもう一度確かめよう。</p>	<p>◎交通事故統計を発表する。</p> <p>平成25年上半期警察庁交通事故統計（小学生）</p> <p>歩行者事故発生件数 731件</p> <p>自転車事故発生件数 406件</p> <p>事故原因の「飛び出しなどの安全不確認」</p> <p>自転車の場合 全体の20.9%</p> <p>歩行時 全体の25.2%</p>
展 開	<p>○安全な歩き方や道路標識について理解する。</p> <p>学校の教室や廊下でのルールについて確認しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廊下や階段では、右側を歩く。 ・廊下を走ってはいけません。 ・教室から廊下に出るときは、外に人がいないか、よく見てから出る。 <p>この道路標識はどんなことを表しているかわかりますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一時停止 ・歩行者専用道路 ・歩行者横断禁止 <p>2枚の写真で、違うところがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見通しのよい交差点と見通しの悪い交差点。 <p>なぜ自動車とぶつかってしまったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飛び出してしまったから。 ・左右を確認しなかったから。 <p>見通しの悪い交差点の写真を見て、気を付けることを考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「みえる」と「みてる」は違う。 	<p>◎プレゼンテーションソフトを使い、進める。</p> <p>◎児童が視覚的に標識や身近な危険な場所を捉えることができるように、道路標識や安全な歩行の仕方の映像資料を示す。</p> <p>◎「みえる」と「みてる」の違いが分かるように、児童から見える範囲と自動車の運転手から見える範囲の映像資料を示す。</p>
ま と め	<p>○本時の学習を振り返る。</p> <p>今日、学習してわかったことを標語にしましょう。「交通安全標語を作ろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おもいやり 人に車に この街に ・青だけど 車はわたしを みてるかな 	<p>◎標語を考えやすくするために、例を示す。</p> <p>「飛び出すな 車は急に 止まらない」</p> <p>■自分がふだん歩く道において、どこがどのように危険か理解し、ワークシートに標語を記述している。（ワークシート）</p>

(3) 評価

- ・道路のきまりを理解し、登下校時に安全に正しく歩行したりできるように考えることができたか。
- ・危険な行動を回避する方法が分かり、安全な行動をしようとする意識が高まったか。

特別活動（学級活動）学習指導案

学校名	江戸川区立 春江小学校
日時	平成25年 10月 25日（金） 午後1時45分から午後2時30分
場所	2年2組教室
対象	2年2組児童 31名
授業者	池崎 誠

1 題材名 「見えない恐怖！見える安心」

2 目標

Ⅱ-1 道路の歩行と横断及び交通機関の利用

道路の役割・きまりや道路における様々な危険について理解し、安全な歩行ができるようにする。

3 児童の実態

集団登校のような、大人数で行動するときはルールを守ることができ、安全な行動を心がける姿勢はみられる。仮設校舎のため近くの中学校の校庭へ体育の授業で歩道を移動するときや、信号を渡るときも注意しながら行動している。

しかし、児童だけの少人数になると自分中心の行動が増え、落ち着いて行動しようとする気持ちが薄れてくる。

実際に今年度だけで、交通事故と直接つながりはないが、自転車に乗っているのけがが2件、下校時のけがが1件発生している。また、大きなけがにはならなかったが、下校中に走って転んでしまったなどという報告は登校中よりも多くなっている。

登校班や担任が引率しているときの指示による行動や、周りの人を見ながらの行動はよくできているので、少人数や一人になった時の行動をもう一度見直し、どんな時でも交通安全を意識して行動できるようにしていきたい。

4 本題材と「日常的な安全指導」「定期的な安全指導」「特設する安全学習」との関連

(1) 「日常的な安全指導」との関連

学区内で起きた交通事故の情報が入ってきた時は、即時、朝の会や帰りの会で指導をしている。また、基本的事項の繰り返しや「定期的な安全指導」で取り上げた内容の確認、その時々情報をもとに適切な指導を行い、「自分の安全を守るのは自分である」という意識の喚起や定着を図っている。

(2) 「定期的な安全指導」との関連

月1回の安全指導日に、その学年で「必ず指導する基本的事項」を取り上げ、日々の行動を振り返らせながら、正しい歩き方を実演させたり、ワークシートに記入させたりして確認している。

(3) 「特設する安全学習」との関連

セーフティ教室や親子交通安全教室を計画的に行い、誘拐やいたずら目的のつれさりや交通事故から身を守る意識を高めている。

本時では、普段、何気なく見ている道路標識の意味や自動車の運転席から見える範囲を確認したり、学区区域内で最も事故が多い場所の写真を例示して、歩くときの注意事項を再確認したりして、いつでも正しく安全に歩行できるようにする。

5 目標に迫るための指導方法の工夫

- ・学習内容を理解しやすいように、視覚的に捉えやすい映像を活用する。
- ・地元の駐在警官の協力を得て、児童の実態に応じた映像教材を作成する。
- ・通学路の危険な箇所を確認するために、その場所の写真や道路標識を提示する。
- ・安全に対する意識を高めるために、学習のまとめとして、安全に関する標語を作る。

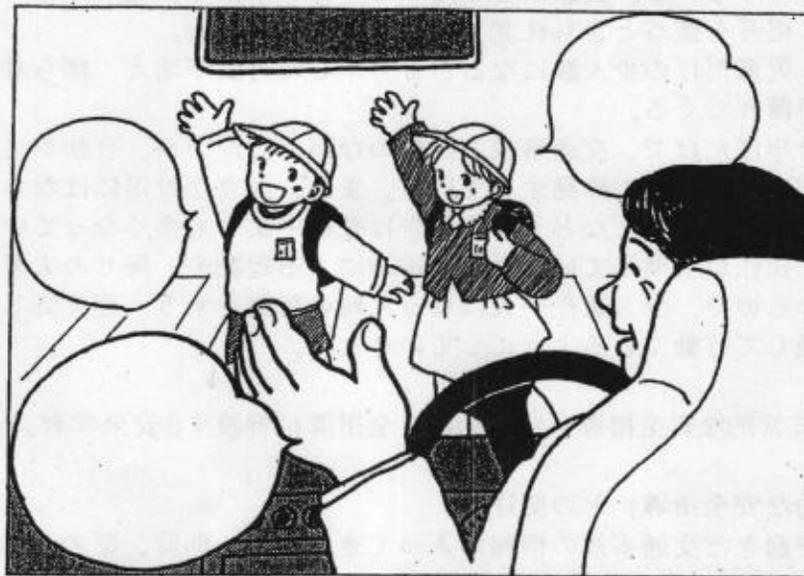
* 参考資料 (安全指導資料)

まもってわたるよ **5** 月 **2** 学 年
しんごうき

() ねん () くみ

なまえ

① とまって まっていている うんてんしゅさんに
ひとこと いいましょう。



② つぎの あいずは どちらのことでしょうか。
ただしいほうに ○をつけましょう。



- () わたるな
() いそいでわたれ

- () とびだせ
() いちどとまれ



6 本時の指導（第1時／1時間）

(1) ねらい

- ・道路のきまりを理解したり、登下校時に安全に正しく歩行したりできるようにする。
- ・危険な行動を回避する方法が分かり、安全な行動をしようとする態度を身に付ける。

【Ⅱ-1-①②③】

(2) 展開

	○主な学習活動	◎支援・留意点 ■評価（評価方法）
導入	<p>○親子交通安全教室で学んだことを振り返る。</p> <p>○平成25年度の都内（小学生）の交通事故発生件数と事故原因を知る。</p> <p>○本時の学習内容を知り、めあてを確かめる。</p> <p>登下校時や放課後の安全な歩き方をもう一度確かめよう。</p>	<p>◎交通事故統計を発表する。</p> <p>平成25年上半期警察庁交通事故統計（小学生）</p> <p>歩行者事故発生件数 731件</p> <p>自転車事故発生件数 406件</p> <p>事故原因の「飛び出しなどの安全不確認」</p> <p>自転車の場合 全体の20.9%</p> <p>歩行時 全体の25.2%</p>
展開	<p>○安全な歩き方や道路標識について理解する。</p> <p>学校の教室や廊下でのルールについて確認しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廊下や階段では、右側を歩く。 ・廊下を走ってはいけません。 ・教室から廊下に出るときは、外に人がいないか、よく見てから出る。 <p>この道路標識はどんなことを表しているかわかりますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一時停止 ・歩行者専用道路 ・歩行者横断禁止 <p>2枚の写真で、違うところはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見通しのよい交差点と見通しの悪い交差点。 <p>なぜ自動車とぶつかってしまったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飛び出してしまったから。 ・左右を確認しなかったから。 <p>見通しの悪い交差点の写真を見て、気を付けることを考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「みえる」と「みてる」は違う。 	<p>◎プレゼンテーションソフトを使い、進める。</p> <p>◎児童が視覚的に標識や身近な危険な場所を捉えることができるように、道路標識や安全な歩行の仕方の映像資料を示す。</p> <p>◎「みえる」と「みてる」の違いが分かるように、児童から見える範囲と自動車の運転手から見える範囲の映像資料を示す。</p>
まとめ	<p>○本時の学習を振り返る。</p> <p>今日、学習してわかったことを標語にしましょう。「交通安全標語を作ろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おもいやり 人に車に この街に ・青だけど 車はわたしを みてるかな 	<p>◎標語を考えやすくするために、例を示す。</p> <p>「飛び出すな 車は急に 止まらない」</p> <p>■自分がふだん歩く道において、どこがどのように危険か理解し、ワークシートに標語を記述している。（ワークシート）</p>

(3) 評価

- ・道路のきまりを理解し、登下校時に安全に正しく歩行したりできるように考えることができたか。
- ・危険な行動を回避する方法が分かり、安全な行動をしようとする意識が高まったか。

特別活動（学級活動）学習指導案

学校名	江戸川区立 春江小学校
日時	平成25年 10月 25日（金） 午後1時45分から午後2時30分
場所	2年3組教室
対象	2年3組児童 31名
授業者	江崎 美緒

1 題材名 「見えない恐怖！見える安心」

2 目標

Ⅱ－1 道路の歩行と横断及び交通機関の利用

道路の役割・きまりや道路における様々な危険について理解し、安全な歩行ができるようにする。

3 児童の実態

本学級の児童は、登校時には6年生の班長を中心に集団登校しているので安全に対する意識が高い。しかし班によっては広がって歩いたり、前の人を抜かしたり、校門まで走って入ってきたりする児童がいる。

また、下校時は、おしゃべりに夢中で、左右を確認しなかったり、周囲に注意を払わずに道路を渡っていたりすることがある。放課後も飛び出しをしたり、友達と遊びながら広がって歩いたりするなど危険な歩き方をしていることが多い。他の歩行者や運転者の迷惑になっていると気付いていなかったり、どんなに危険なことかが分かっていなかったりするということが原因になっている。車からどう見えるのかも分かっていないと思われる。

授業時間に移動するときには、黄色信号で渡らない、広がらずに歩く、左右を確認して渡るなどの交通ルールを理解しているが、子供だけの時には意識が低くなってしまふ。実際に事故を起こした児童はいないが、事故に遭いそうになった児童はいる。いつでもまわりに気を付けて歩行できるように意識をさせたい。

4 本題材と「日常的な安全指導」「定期的な安全指導」「特設する安全学習」との関連

(1) 「日常的な安全指導」との関連

学区内で起きた交通事故の情報が入ってきた時は、即時、朝の会や帰りの会で指導をしている。また、基本的事項の繰り返しや「定期的な安全指導」で取り上げた内容の確認、その時々々の情報をもとに適切な指導を行い、「自分の安全を守るのは自分である」という意識の喚起や定着を図っている。

(2) 「定期的な安全指導」との関連

月1回の安全指導日に、その学年で「必ず指導する基本的事項」を取り上げ、日々の行動を振り返らせながら、正しい歩き方を実演させたり、ワークシートに記入させたりして確認している。

(3) 「特設する安全学習」との関連

セーフティ教室や親子交通安全教室を計画的に行い、誘拐やいたずら目的のつれさりや交通事故から身を守る意識を高めている。

本時では、普段、何気なく見ている道路標識の意味や自動車の運転席から見える範囲を確認したり、学区域内で最も事故が多い場所の写真を例示して、歩くときの注意事項を再確認したりして、いつでも正しく安全に歩行できるようにする。

5 目標に迫るための指導方法の工夫

- ・学習内容を理解しやすいように、視覚的に捉えやすい映像を活用する。
- ・地元の駐在警官の協力を得て、児童の実態に応じた映像教材を作成する。
- ・通学路の危険な箇所を確認するために、その場所の写真や道路標識を提示する。
- ・安全に対する意識を高めるために、学習のまとめとして、安全に関する標語を作る。

*参考資料（安全指導資料）

まもってわたるよ **5** 月
しんごうき 2学 年

()なん()くみ

なまえ

①とまって まってくれている うんてんしゅさんに
ひとこと いいましょう。



②つぎの あいずは どちらのことでしょうか。
ただしいほうに ○をつけましょう。



- ()わたるな
()いそいでわたれ

- ()とびだせ
()いちどとまれ



6 本時の指導（第1時／1時間）

(1) ねらい

- ・道路のきまりを理解したり、登下校時に安全に正しく歩行したりできるようにする。
- ・危険な行動を回避する方法が分かり、安全な行動をしようとする態度を身に付ける。

【Ⅱ-1-①②③】

(2) 展開

	○主な学習活動	◎支援・留意点 ■評価（評価方法）
導入	<p>○親子交通安全教室で学んだことを振り返る。</p> <p>○平成25年度の都内（小学生）の交通事故発生件数と事故原因を知る。</p> <p>○本時の学習内容を知り、めあてを確かめる。</p> <p>登下校時や放課後の安全な歩き方をもう一度確かめよう。</p>	<p>◎交通事故統計を発表する。</p> <p>平成25年上半期警察庁交通事故統計（小学生）</p> <p>歩行者事故発生件数 731件</p> <p>自転車事故発生件数 406件</p> <p>事故原因の「飛び出しなどの安全不確認」</p> <p>自転車の場合 全体の20.9%</p> <p>歩行時 全体の25.2%</p>
展開	<p>○安全な歩き方や道路標識について理解する。</p> <p>学校の教室や廊下でのルールについて確認しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廊下や階段では、右側を歩く。 ・廊下を走ってはいけません。 ・教室から廊下に出るときは、外に人がいないか、よく見てから出る。 <p>この道路標識はどんなことを表しているかわかりますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一時停止 ・歩行者専用道路 ・歩行者横断禁止 <p>2枚の写真で、違うところがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見通しのよい交差点と見通しの悪い交差点。 <p>なぜ自動車とぶつかってしまったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飛び出してしまったから。 ・左右を確認しなかったから。 <p>見通しの悪い交差点の写真を見て、気を付けることを考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「みえる」と「みてる」は違う。 	<p>◎プレゼンテーションソフトを使い、進める。</p> <p>◎児童が視覚的に標識や身近な危険な場所を捉えることができるように、道路標識や安全な歩行の仕方の映像資料を示す。</p> <p>◎「みえる」と「みてる」の違いが分かるように、児童から見える範囲と自動車の運転手から見える範囲の映像資料を示す。</p>
まとめ	<p>○本時の学習を振り返る。</p> <p>今日、学習してわかったことを標語にしましょう。「交通安全標語を作ろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おもいやり 人に車に この街に ・青だけど 車はわたしを みてるかな 	<p>◎標語を考えやすくするために、例を示す。</p> <p>「飛び出すな 車は急に 止まらない」</p> <p>■自分がふだん歩く道において、どこがどのように危険か理解し、ワークシートに標語を記述している。（ワークシート）</p>

(3) 評価

- ・道路のきまりを理解し、登下校時に安全に正しく歩行したりできるように考えることができたか。
- ・危険な行動を回避する方法が分かり、安全な行動をしようとする意識が高まったか。

特別活動（学級活動）学習指導案

学校名	江戸川区立 春江小学校
日時	平成25年 10月 25日（金） 午後1時45分から午後2時30分
場所	2年4組教室
対象	2年4組児童 31名
授業者	平山 綾

1 題材名 「見えない恐怖！見える安心」

2 目標 II-1 ①道路のきまりと安全な歩行の仕方を確認しよう。

・道路には様々なきまりがあり、安全な歩行の仕方があることを理解する。

3 児童の実態

登校時は集団で登校しているため、比較的安全に歩いて来ている。また、校外の施設等への移動の際も、2列で話しをしないで道に沿って上手に歩くことができる。信号もよく見て行動できている。

しかし、下校時、放課後等、学校を離れた場所における子ども同士での行動時には、信号が変わろうとしているのに渡ったり、信号を無視したり、歩道を走り回ったりと、危険な歩き方をしている児童がみられる。大きな事故につながらない今、こうした行動が非常に危険であるということについて本学習を通して学ばせたい。

4 本題材と「日常的な安全指導」「定期的な安全指導」「特設する安全学習」との関連

(1) 「日常的な安全指導」との関連

学区内で起きた交通事故の情報が入ってきた時は、即時、朝の会や帰りの会で指導をしている。また、基本的事項の繰り返しや「定期的な安全指導」で取り上げた内容の確認、その時々情報をもとに適切な指導を行い、「自分の安全を守るのは自分である」という意識の喚起や定着を図っている。

(2) 「定期的な安全指導」との関連

月1回の安全指導日に、その学年で「必ず指導する基本的事項」を取り上げ、日々の行動を振り返らせながら、正しい歩き方を実演させたり、ワークシートに記入させたりして確認している。

(3) 「特設する安全学習」との関連

セーフティ教室や親子交通安全教室を計画的に行い、誘拐やいたずら目的のつれさりと交通事故から身を守る意識を高めている。

本時では、普段、何気なく見ている道路標識の意味や自動車の運転席から見える範囲を確認したり、学区内で最も事故が多い場所の写真を例示して、歩くときの注意事項を再確認したりして、いつでも正しく安全に歩行できるようにする。

5 目標に迫るための指導方法の工夫

- ・学習内容を理解しやすいように、視覚的に捉えやすい映像を活用する。
- ・地元の駐在警官の協力を得て、児童の実態に応じた映像教材を作成する。
- ・通学路の危険な箇所を確認するために、その場所の写真や道路標識を提示する。
- ・安全に対する意識を高めるために、学習のまとめとして、安全に関する標語を作る。

*参考資料（安全指導資料）

まもってわたるよ
 しんごうき

5 月
 2 学 年

() ねん () ぐみ
 なま え



① とまって まってくれているうんてんしゃさんに
 ひとこと いいましょう。



② つぎの あいずは どちらのことでしょうか。
 正しいほうに ○をつけましょう。



- () わたるな
- () いそいでわたれ

- () とびだせ
- () いちどとまれ



6 本時の指導（第1時／1時間）

(1) ねらい

- ・道路のきまりを理解したり、登下校時に安全に正しく歩行したりできるようにする。
- ・危険な行動を回避する方法が分かり、安全な行動をしようとする態度を身に付ける。

【Ⅱ-1-①②③】

(2) 展開

	○主な学習活動	◎支援・留意点 ■評価（評価方法）
導入	<p>○親子交通安全教室で学んだことを振り返る。</p> <p>○平成25年度の都内（小学生）の交通事故発生件数と事故原因を知る。</p> <p>○本時の学習内容を知り、めあてを確かめる。</p> <p>登下校時や放課後の安全な歩き方をもう一度確かめよう。</p>	<p>◎交通事故統計を発表する。</p> <p>平成25年上半期警察庁交通事故統計（小学生）</p> <p>歩行者事故発生件数 731件</p> <p>自転車事故発生件数 406件</p> <p>事故原因の「飛び出しなどの安全不確認」</p> <p>自転車の場合 全体の20.9%</p> <p>歩行時 全体の25.2%</p>
展開	<p>○安全な歩き方や道路標識について理解する。</p> <p>学校の教室や廊下でのルールについて確認しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廊下や階段では、右側を歩く。 ・廊下を走ってはいけません。 ・教室から廊下に出るときは、外に人がいないか、よく見てから出る。 <p>この道路標識はどんなことを表しているかわかりますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一時停止 ・歩行者専用道路 ・歩行者横断禁止 <p>2枚の写真で、違うところがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見通しのよい交差点と見通しの悪い交差点。なぜ自動車とぶつかってしまったのでしょうか。 ・飛び出してしまったから。 ・左右を確認しなかったから。 <p>見通しの悪い交差点の写真を見て、気を付けることを考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「みえる」と「みてる」は違う。 	<p>◎プレゼンテーションソフトを使い、進める。</p> <p>◎児童が視覚的に標識や身近な危険な場所を捉えることができるように、道路標識や安全な歩行の仕方の映像資料を示す。</p> <p>◎「みえる」と「みてる」の違いが分かるように、児童から見える範囲と自動車の運転手から見える範囲の映像資料を示す。</p>
まとめ	<p>○本時の学習を振り返る。</p> <p>今日、学習してわかったことを標語にしましょう。「交通安全標語を作ろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おもいやり 人に車に この街に ・青だけ 車はわたしを みてるかな 	<p>◎標語を考えやすくするために、例を示す。</p> <p>「飛び出すな 車は急に 止まらない」</p> <p>■自分がふだん歩く道において、どこがどのように危険か理解し、ワークシートに標語を記述している。（ワークシート）</p>

(3) 評価

- ・道路のきまりを理解し、登下校時に安全に正しく歩行したりできるように考えることができたか。
- ・危険な行動を回避する方法が分かり、安全な行動をしようとする意識が高まったか。

特別活動（学級活動）学習指導案

学校名	江戸川区立 春江小学校
日 時	平成25年 10月 25日（金） 午後1時45分から午後2時30分
場 所	2年5組教室
対 象	2年5組児童 31名
授業者	大熊 寿乃

1 題材名 「見えない恐怖！見える安心」

2 目標

Ⅱ-1 道路の歩行と横断及び交通機関の利用

道路の役割・きまりや道路における様々な危険について理解し、安全な歩行ができるようにする。

3 児童の実態

集団登校しているが、大勢でおしゃべりをしながら登校していて、自分で安全を確認しなければという意識をもって歩いている児童はあまりいない。きちんと歩いているが、低学年なので、上級生の後について行けば良いという、人任せな気持ちがあると考えられる。

外部の施設への移動時には上級生がいないので、「自転車来るよ。」「信号変わるから早く。」など、声をかけあって歩行している。ただ、つい道端の物に気を取られて遊び歩きをしたり、白線の外にはみだして歩いてしまったりと、常に呼びかけが必要である。

放課後友達同士での下校や遊ぶ際には、もっと注意力が散漫になっている。

どうして注意して歩く必要があるのか、どんな点に特に気を付ければよいのか、しっかりとした認識がないことが原因の一つと考えられる。ドライバーの視点を確認したり、具体的な事故の事例を知り、普段言われていることがなぜ大事なのか考えることで、安全への意識が高まると考えられる。

4 本題材と「日常的な安全指導」「定期的な安全指導」「特設する安全学習」との関連

(1) 「日常的な安全指導」との関連

学区内で起きた交通事故の情報が入ってきた時は、即時、朝の会や帰りの会で指導をしている。また、基本的事項の繰り返しや「定期的な安全指導」で取り上げた内容の確認、その時々々の情報をもとに適切な指導を行い、「自分の安全を守るのは自分である」という意識の喚起や定着を図っている。

(2) 「定期的な安全指導」との関連

月1回の安全指導日に、その学年で「必ず指導する基本的事項」を取り上げ、日々の行動を振り返らせながら、正しい歩き方を実演させたり、ワークシートに記入させたりして確認している。

(3) 「特設する安全学習」との関連

セーフティ教室や親子交通安全教室を計画的に行い、誘拐やいたずら目的のつれさりと交通事故から身を守る意識を高めている。

本時では、普段、何気なく見ている道路標識の意味や自動車の運転席から見える範囲を確認したり、学区内で最も事故が多い場所の写真を例示して、歩くときの注意事項を再確認したりして、いつでも正しく安全に歩行できるようにする。

5 目標に迫るための指導方法の工夫

- ・学習内容を理解しやすいように、視覚的に捉えやすい映像を活用する。
- ・地元の駐在警官の協力を得て、児童の実態に応じた映像教材を作成する。
- ・通学路の危険な箇所を確認するために、その場所の写真や道路標識を提示する。
- ・安全に対する意識を高めるために、学習のまとめとして、安全に関する標語を作る。

*参考資料（安全指導資料）

まもってわたるよ **5** 月
しんごうき 2学 年

()ねん()くみ

なまえ

① とまって まっていている うんてんしゃさんに
ひとこと いいましょう。



② つぎの あいずは どちらのことでしょうか。
ただしいほうに ○をつけましょう。



- ()わたるな
()いそいでわたれ

- ()とびだせ
()いちどとまれ



6 本時の指導（第1時／1時間）

(1) ねらい

- ・道路のきまりを理解したり、登下校時に安全に正しく歩行したりできるようにする。
- ・危険な行動を回避する方法が分かり、安全な行動をしようとする態度を身に付ける。

【Ⅱ-1-①②③】

(2) 展開

	○主な学習活動	◎支援・留意点 ■評価（評価方法）
導入	<p>○親子交通安全教室で学んだことを振り返る。</p> <p>○平成25年度の都内（小学生）の交通事故発生件数と事故原因を知る。</p> <p>○本時の学習内容を知り、めあてを確かめる。</p> <p>登下校時や放課後の安全な歩き方をもう一度確かめよう。</p>	<p>◎交通事故統計を発表する。</p> <p>平成25年上半期警察庁交通事故統計（小学生）</p> <p>歩行者事故発生件数 731件</p> <p>自転車事故発生件数 406件</p> <p>事故原因の「飛び出しなどの安全不確認」</p> <p>自転車の場合 全体の20.9%</p> <p>歩行時 全体の25.2%</p>
展開	<p>○安全な歩き方や道路標識について理解する。</p> <p>学校の教室や廊下でのルールについて確認しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廊下や階段では、右側を歩く。 ・廊下を走ってはいけません。 ・教室から廊下に出るときは、外に人がいないか、よく見てから出る。 <p>この道路標識はどんなことを表しているかわかりますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一時停止 ・歩行者専用道路 ・歩行者横断禁止 <p>2枚の写真で、違うところがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見通しのよい交差点と見通しの悪い交差点。 <p>なぜ自動車とぶつかってしまったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飛び出してしまったから。 ・左右を確認しなかったから。 <p>見通しの悪い交差点の写真を見て、気を付けることを考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「みえる」と「みてる」は違う。 	<p>◎プレゼンテーションソフトを使い、進める。</p> <p>◎児童が視覚的に標識や身近な危険な場所を捉えることができるように、道路標識や安全な歩行の仕方の映像資料を示す。</p> <p>◎「みえる」と「みてる」の違いが分かるように、児童から見える範囲と自動車の運転手から見える範囲の映像資料を示す。</p>
まとめ	<p>○本時の学習を振り返る。</p> <p>今日、学習してわかったことを標語にしましょう。「交通安全標語を作ろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おもいやり 人に車に この街に ・青だけど 車はわたしを みてるかな 	<p>◎標語を考えやすくするために、例を示す。</p> <p>「飛び出すな 車は急に 止まらない」</p> <p>■自分がふだん歩く道において、どこがどのように危険か理解し、ワークシートに標語を記述している。（ワークシート）</p>

(3) 評価

- ・道路のきまりを理解し、登下校時に安全に正しく歩行したりできるように考えることができたか。
- ・危険な行動を回避する方法が分かり、安全な行動をしようとする意識が高まったか。

特別活動（学級活動）学習指導案

学校名	江戸川区立春江小学校
日時	平成25年10月25日（金） 午後1時45分から午後2時30分
場所	3年1組 教室
対象	第3学年1組 35名
授業者	石井 早苗

1 題材名 「春江の町のかくれた危険を見つけよう～自転車の安全な走行～」

2 目標

Ⅱ-2 自転車の安全な利用と点検・整備

自転車の安全な利用・点検や整備について理解を深め、交通のきまり・約束等を守って安全な乗車ができるようにする。

3 児童の実態

本学級のほとんどの児童が自転車に乗れる。自転車に乗る頻度や運転技術には個人差が大きいものの、公園や友達の家に行くときなど、大人と一緒にではなく友達同士で乗っている児童が多い。10月初旬に、警察の方から自転車の正しい乗り方や交通ルールについて話を聞き、道路を想定した実際のコースで乗り方の練習をする「自転車運転免許教室」を行った。その際、自分では上手に乗れると思っていた児童も、少し難しいコースになると上手く乗ることができないことが分かった。講習修了後には、全員の児童に免許証が交付された。

中学年になると、自転車に乗って行動することが増えてくる。そのため、急激に行動範囲も広がる。この時期に交通ルールを守り、安全な自転車の乗り方について体験を通して考えさせ、安全に対する意識をもたせることは重要である。これまでの学習体験と児童に日常を振り返らせることで、交通安全に対する意識をもち、進んで安全な活動をする見通しがもてるようにしたい。

4 本題材と「日常的な安全指導」「定期的な安全指導」「特設する安全学習」との関連

「日常的な安全指導」として、朝の会や帰りの会、学級指導などにおいて道路の歩行や交通機関の利用、自転車の安全な利用について繰り返し指導を行っている。また、交通安全標語をつくり、毎日帰りの会で数名ずつ発表することで、交通安全に対する意識を高めるようにしている。

「定期的な安全指導」として、毎年『自転車運転免許教室』を行っている。その際、正しい自転車の乗り方や標識、自転車のきまりなどを体験して学習した。また、毎月の安全指導の際にも安全な自転車の乗り方について考えさせている。

「特設する安全学習」として、社会科で『わたしたちの町みんなの町』の単元を学習した後に、総合的な学習の時間において学校のまわりの様子をさらに調べ、交通に対する危険箇所についても考えさせた。

自転車教室で自転車の運転操作や自転車の安全点検、一時停止などの基本的なことは、学習した。さらに、身近なところにも危険が潜んでいることをシミュレーションを用いて再認識させ、交通安全に気を付けて自転車を運転するために本単元を設定した。

5 目標に迫るための指導方法の工夫

春江小学校のすぐ近くには、京葉道路がある。その京葉道路に出たり入ったりする車が、学校の前の狭い道路もスピードを出して通っているのをよく見かける。また、住宅街の狭い道路でも、スピードが出ている車、曲がってくる車など危ないと思うことがよくある。さらに、自転車と車の接触事故が多い地域である。いつも歩いている通学路や、遊びに行くときに通っている学区内の道路など、春江小学校の近辺の写真を提示することで、身近なところにも危険が潜んでいることを考えさせ、安全に対する意識をもたせたい。

6 本時の指導（第1時／1時間）

(1) ねらい

- ・自転車走行中の危険について考え、安全な行動をしようとする。
- ・明らかな危険だけでなく、潜む危険についても知ること、危険を回避する能力を身に付ける。

【Ⅱ-2-①②】

(2) 展開

	○主な学習活動	◎支援・留意点 ■評価（評価方法）
導入	<p>○「自転車のいいところ」について考える。</p> <p>○「便利な自転車。でも、何も考えないで乗っているとどうなるだろう。」隠れた危険について考える。</p>	<p>・自転車には、いいところもあるけど、それだけではないところに気付かせる。</p>
展開	<p>○本時の学習について知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>春江のまちの かくれたきけんを 見つけよう。</p> </div> <p>○絵の中から、どんな危険が潜んでいるか話し合う。</p> <p>○春江小学校の近辺の写真を見ながら、潜む危険をグループで話し合う。</p> <p>○潜む危険を避けるためにはどうすればよいかを話し合い、ワークシートに書く。</p> <p>○グループごとに話し合った内容を発表する。</p>	<p>・自転車も車両であることや、安全に自転車に乗るためにきまりを守ることが大切であることを考えさせる。</p> <p>◎手放し運転、片手運転、スピードの出し過ぎ、信号無視、二人乗りの危険、傘さし運転など、危険な乗り方について振り返らせる。</p> <p>■走行中の様々な危険について自分なりに考え、発言している。（発言）</p> <p>◎春江小学校近辺の写真を掲示する。</p> <p>◎パソコンを使ってテレビ画面に自転車事故のシミュレーションを示す。</p> <p>・自分なりに危ない場面でどうすればよいかを考えさせる。</p> <p>■写真に示された情報から、明らかな危険だけでなく、潜む危険もあることを読み取り、危ない場面ではどのように行動すればよいかについて発言やワークシートに記述している。（発言・ワークシート）</p>
まとめ	<p>○今日学習したことをもとに、自分の安全のめあてを設定しワークシートに記入する。</p>	<p>・めあてを日常生活に生かしていくように話す。</p>

(3) 評価

- ・自転車に乗る場合の様々な危険について自ら考え、安全に対する意識をもつことができたか。
- ・自転車に乗るときは潜む危険があることを理解できたか。

特別活動（学級活動）学習指導案

学校名	江戸川区立春江小学校
日時	平成25年10月25日（金） 午後1時45分から午後2時30分
場所	3年2組 教室
対象	第3学年2組 34名
授業者	高橋 孝太

1 題材名 「春江の町のかくれた危険を見つけよう～自転車の安全な走行～」

2 目標

Ⅱ-2 自転車の安全な利用と点検・整備

自転車の安全な利用・点検や整備について理解を深め、交通のきまり・約束等を守って安全な乗車ができるようにする。

3 児童の実態

本学級のほとんどの児童が、ほぼ毎日のように自転車を使っている。近くの公園や友達の家に行くときなど、大人と一緒にではなく児童一人で乗っていることもある。また、自宅周辺だけでなく、買い物や習い事で人通りの多い駅前に行くことも増え、児童の行動範囲は少しずつ広がってきている。

10月初旬に、警察の方から自転車の正しい乗り方や交通ルールについて話を聞き、道路を想定した実際のコースで自転車の乗り方や危険な場所を確認する「自転車運転免許教室」を行った。講習修了後には、全員の児童に免許証が交付されたが、自転車に乗る頻度や運転技術には個人差が大きい。多くの児童は運転技術が未熟で危険性を配慮する余裕がなく、安全なルールを実行するに至っていない。そこで児童の実生活に即した春江の町の危険な場所を意識させたい。

4 本題材と「日常的な安全指導」「定期的な安全指導」「特設する安全学習」との関連

「日常的な安全指導」として、朝の会や帰りの会、学級指導などにおいて道路の歩行や交通機関の利用、自転車の安全な利用について繰り返し指導を行っている。また、交通安全標語をつくり、毎日帰りの会で数名ずつ発表することで、交通安全に対する意識を高めるようにしている。

「定期的な安全指導」として、毎年『自転車運転免許教室』を行っている。その際、正しい自転車の乗り方や標識、自転車のきまりなど体験して学習した。また、毎月の安全指導の際にも危険な自転車の乗り方について考えさせている。

「特設する安全学習」として、社会科で『わたしたちの町みんなの町』の単元を学習した後に、総合的な学習の時間において学校のまわりの様子さらに調べ、交通に対する危険箇所についても考えさせた。

この時期に交通ルールを守ることや、安全な自転車の乗り方について体験を通して考えさせること、安全に対する意識をもたせることはとても重要である。これまでの学習体験と児童に日常を振り返らせることで、交通安全に対する意識をもち、進んで安全な活動をする見通しがもてるようにするため、本単元を設定した。

5 目標に迫るための指導方法の工夫

春江小学校のすぐ近くには、京葉道路がある。その京葉道路に出たり入ったりする車が、学校の前の狭い道路もスピードを出して通っているのをよく見かける。また、住宅街の狭い道路でも、スピードが出ている車、曲がってくる車など危ないと思うことがよくある。さらに、自転車と車の接触事故が多い地域である。いつも歩いている通学路や、遊びに行くときに通っている学区内の道路など、春江小学校の近辺の写真を提示することで、身近なところにも危険が潜んでいることを考えさせ、安全に対する意識をもたせたい。0

6 本時の指導（第1時／1時間）

(1) ねらい

- ・自転車走行中の危険について考え、安全な行動をしようとする。
 - ・明らかな危険だけでなく、潜む危険についても知ることで、危険を回避する能力を身に付ける。
- 【Ⅱ-2-①②】

(2) 展開

	○主な学習活動	◎支援・留意点 ■評価（評価方法）
導入	<p>○「自転車のいいところ」について考える。</p> <p>○「便利な自転車。でも、何も考えないで乗っているとどうなるだろう。」隠れた危険について考える。</p>	<p>・自転車には、いいところもあるけど、それだけではないところに気付かせる。</p>
展開	<p>○本時の学習について知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>春江のまちの かくれたきけんを 見つけよう。</p> </div> <p>○絵の中から、どんな危険が潜んでいるか話し合う。</p> <p>○春江小学校の近辺の写真を見ながら、潜む危険をグループで話し合う。</p> <p>○潜む危険を避けるためにはどうすればよいかを話し合い、ワークシートに書く。</p> <p>○グループごとに話し合った内容を発表する。</p>	<p>・自転車も車両であることや、安全に自転車に乗るためにきまりを守ることが大切であることを考えさせる。</p> <p>◎手放し運転、片手運転、スピードの出し過ぎ、信号無視、二人乗りの危険、傘さし運転など、危険な乗り方について振り返らせる。</p> <p>■走行中の様々な危険について自分なりに考え、発言している。（発言）</p> <p>◎春江小学校近辺の数ヶ所の写真を掲示する。</p> <p>◎パソコンを使ってテレビ画面に自転車事故のシミュレーションを示す。</p> <p>・自分なりに危ない場面でどうすればよかったかを考えさせる。</p> <p>■写真に示された情報から、明らかな危険だけでなく、潜む危険もあることを読み取り、危ない場面ではどのように行動すればよいかについて発言やワークシートに記述している。（発言・ワークシート）</p>
まとめ	<p>○今日学習したことをもとに、自分の安全のためあてを設定しワークシートに記入する。</p>	<p>◎ヘルメットの着用についても、ワークシートの絵をもとに考えさせる。</p> <p>・めあてを日常生活に生かしていくように話す。</p>

(3) 評価

- ・自転車に乗る場合の様々な危険について自ら考え、安全に対する意識をもつことができたか。
- ・自転車に乗るときは潜む危険があることを理解できたか。

特別活動（学級活動）学習指導案

学校名	江戸川区立春江小学校
日時	平成25年10月25日（金） 午後1時45分から午後2時30分
場所	3年3組 教室
対象	第3学年3組 35名
授業者	植村 耕作

1 題材名 「春江の町のかくれた危険を見つけよう～自転車の安全な走行～」

2 目標

Ⅱ-2 自転車の安全な利用と点検・整備

自転車の安全な利用・点検や整備について理解を深め、交通のきまり・約束等を守って安全な乗車ができるようにする。

3 幼児・児童・生徒の実態

本学級のほぼ全員の児童が自転車に乗れ、毎日のように自転車を使用している。公園や友達の家に行くときなど、大人と一緒にではなく友達同士で乗っている児童も多い。また、塾や習い事等をする児童も増え、行動範囲も少しずつ広がってきている。

10月初旬に、警察の方から自転車の正しい乗り方や交通ルールについて話を聞き、道路を想定したコースで自転車の乗り方や危険な場所を確認する「自転車運転免許教室」をおこなった。講習修了後に、全員の児童に免許証が交付された。自転車に乗る頻度や運転技術には個人差が大きく、多くの児童は、技術が未熟で危険性を配慮する余裕がないように思えた。交通ルールを守るという意識も頭では分かっているが、実際には行動できない児童もいた。そこで児童の実生活に即した春江の町の危険な場所を意識させたい。

この時期に交通ルールを守ることや、安全な自転車の乗り方について体験を通して考えさせること、安全に対する意識をもたせることはとても重要である。これまでの学習体験と児童に日常を振り返らせることで、交通安全に対する意識をもち、進んで安全な活動をする見通しがもてるようにしていきたい。

4 本題材と「日常的な安全指導」「定期的な安全指導」「特設する安全学習」との関連

「日常的な安全指導」として、朝の会や帰りの会、学級指導などにおいて道路の歩行や交通機関の利用、自転車の安全な利用について繰り返し指導を行っている。また、交通安全標語をつくり、毎日帰りの会で数名ずつ発表することで、交通安全に対する意識を高めるようにしている。

「定期的な安全指導」として、毎年『自転車運転免許教室』を行っている。その際、正しい自転車の乗り方や標識、自転車のきまりなどを体験して学習した。また、毎月の安全指導の際にも安全な自転車の乗り方について考えさせている。

「特設する安全学習」として、社会科で『わたしたちの町みんなの町』の単元を学習した後に、総合的な学習の時間において学校のまわりの様子をさらに調べ、交通に対する危険箇所についても考えさせた。

自転車教室で自転車の運転操作や自転車の安全点検、一時停止などの基本的なことは、学習した。さらに、身近なところにも危険が潜んでいることをシミュレーションを用いて再認識させ、交通安全に気を付けて自転車を運転するために本単元を設定した。

5 目標に迫るための指導方法の工夫

春江小学校のすぐ近くには、京葉道路がある。その京葉道路に出たり入ったりする車が、学校の前の狭い道路もスピードを出して通っているのをよく見かける。また、住宅街の狭い道路でも、スピードが出ている車、曲がってくる車など危ないと思うことがよくある。さらに、自転車と車の接触事故が多い地域である。いつも歩いている通学路や、遊びに行くときに通っている学区内の道路など、春江小学校の近辺の写真を提示することで、身近なところ

にも危険が潜んでいることを考えさせ、安全に対する意識をもたせたい。

6 本時の指導（第1時/1時間）

(1) ねらい

- ・自転車走行中の危険について考え、安全な行動をしようとする。
- ・明らかな危険だけでなく、潜む危険についても知ること、危険を回避する能力を身に付ける。

【Ⅱ-2-①②】

(2) 展開

	○主な学習活動	◎支援・留意点 ■評価（評価方法）
導入	<p>○「自転車のいいところ」について考える。</p> <p>○「便利な自転車。でも、何も考えないで乗っているとどうなるだろう。」隠れた危険について考える。</p>	<p>・自転車には、いいところもあるけど、それだけではないところに気付かせる。</p>
展開	<p>○本時の学習について知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>春江のまちの かくれたきけんを 見つけよう。</p> </div> <p>○絵の中から、どんな危険が潜んでいるか話し合う。</p> <p>○春江小学校の近辺の写真を見ながら、潜む危険をグループで話し合う。</p> <p>○潜む危険を避けるためにはどうすればよいかを話し合い、ワークシートに書く。</p> <p>○グループごとに話し合った内容を発表する。</p>	<p>・自転車も車両であることや、安全に自転車に乗るためにきまりを守ることが大切であることを考えさせる。</p> <p>◎手放し運転、片手運転、スピードの出し過ぎ、信号無視、二人乗りの危険、傘さし運転など、危険な乗り方について振り返らせる。</p> <p>■走行中の様々な危険について自分なりに考え、発言している。（発言）</p> <p>◎春江小学校近辺の数ヶ所の写真を掲示する。</p> <p>◎パソコンを使ってテレビ画面に自転車事故のシミュレーションを示す。</p> <p>■身近にある危険な場所について、これから安全に過ごすための自分なりの対策を考え、ワークシートに記述している。（ワークシート）</p> <p>・自分なりに危ない場面でどうすればよかったかを考えさせる。</p> <p>■写真に示された情報から、明らかな危険だけでなく、潜む危険もあることを読み取り、危ない場面ではどのように行動すればよいかについて発言やワークシートに記述している。（発言・ワークシート）</p>
まとめ	<p>○今日学習したことをもとに、自分の安全のめあてを設定しワークシートに記入する。</p>	<p>◎ヘルメットの着用についても、ワークシートの絵をもとに考えさせる。</p> <p>・めあてを日常生活に生かしていくように話す。</p>

(3) 評価

- ・自転車に乗る場合の様々な危険について自ら考え、安全に対する意識をもつことができたか。
- ・自転車に乗るときは潜む危険があることを理解できたか。

特別活動（学級活動）学習指導案

学校名	江戸川区立春江小学校
日時	平成25年10月25日（金） 午後1時45分から午後2時30分
場所	3年4組 教室
対象	第3学年4組 34名
授業者	下唐湊 みゆき

1 題材名 「春江の町のかくれた危険を見つけよう～自転車の安全な走行～」

2 目標

Ⅱ-2 自転車の安全な利用と点検・整備

自転車の安全な利用・点検や整備について理解を深め、交通のきまり・約束等を守って安全な乗車ができるようにする。

3 児童の実態

本学級のほとんどの児童が自転車に乗れる。自転車に乗る頻度や運転技術には個人差が大きいものの、公園や友達の家に行くときなど、大人と一緒にではなく友達同士で乗っている児童が多い。10月初旬に、警察の方から自転車の正しい乗り方や交通ルールについて話を聞き、道路を想定した実際のコースで乗り方の練習をする「自転車運転免許教室」を行った。講習修了後には、全員の児童に免許証が交付された。その際、自分では上手に乗れると思っていた児童も、少し難しいコースになると上手く乗ることができなかつたことが分かった。

中学年になると、自転車に乗って行動することが増えてくる。そのため、急激に行動範囲も広がる。この時期に交通ルールを守り、安全な自転車の乗り方について体験を通して考えさせ、安全に対する意識をもたせることは重要である。これまでの学習体験と児童に日常を振り返らせることで、交通安全に対する意識をもち、進んで安全な活動をする見通しがもてるようにしたい。

4 本題材と「日常的な安全指導」「定期的な安全指導」「特設する安全学習」との関連

「日常的な安全指導」として、朝の会や帰りの会、学級指導などにおいて道路の歩行や交通機関の利用、自転車の安全な利用について繰り返し指導を行っている。また、交通安全標語をつくり、毎日帰りの会で数名ずつ発表することで、交通安全に対する意識を高めるようにしている。

「定期的な安全指導」として、毎年『自転車運転免許教室』を行っている。その際、正しい自転車の乗り方や標識、自転車のきまりなどを体験して学習した。また、毎月の安全指導の際にも安全な自転車の乗り方について考えさせている。

「特設する安全学習」として、社会科で『わたしたちの町みんなの町』の単元を学習した後に、総合的な学習の時間において学校のまわりの様子をさらに調べ、交通に対する危険箇所についても考えさせた。

自転車教室で自転車の運転操作や自転車の安全点検、一時停止などの基本的なことは、学習した。さらに、身近なところにも危険が潜んでいることをシミュレーションを用いて再認識させ、交通安全に気を付けて自転車を運転するために本単元を設定した。

5 目標に迫るための指導方法の工夫

春江小学校のすぐ近くには、京葉道路がある。その京葉道路に出たり入ったりする車が、学校の前の狭い道路もスピードを出して通っているのをよく見かける。また、住宅街の狭い道路でも、スピードが出ている車、曲がってくる車など危ないと思うことがよくある。さらに、自転車と車の接触事故が多い地域である。いつも歩いている通学路や、遊びに行くときに通っている学区内の道路など、春江小学校の近辺の写真を提示することで、身近なところにも危険が潜んでいることを考えさせ、安全に対する意識をもたせたい。

6 本時の指導（第1時／1時間）

(1) ねらい

- ・自転車走行中の危険について考え、安全な行動をしようとする。
- ・明らかな危険だけでなく、潜む危険についても知ることで、危険を回避する能力を身に付ける。

【Ⅱ-2-①②】

(2) 展開

	○主な学習活動	◎支援・留意点 ■評価 (評価方法)
導入	○「自転車のいいところ」について考える。 ○「便利な自転車。でも、何も考えないで乗っているとどうなるだろう。」隠れた危険について考える。	・自転車には、いいところもあるけど、それだけではないところに気付かせる。
展開	○本時の学習について知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 春江のまちの かくれたきけんを 見つけよう。 </div> ○絵の中から、どんな危険が潜んでいるか話し合う。 ○春江小学校の近辺の写真を見ながら、潜む危険をグループで話し合う。 ○潜む危険を避けるためにはどうすればよいかを話し合い、ワークシートに書く。 ○グループごとに話し合った内容を発表する。	・自転車も車両であることや、安全に自転車に乗るためにきまりを守ることが大切であることを考えさせる。 ◎手放し運転、片手運転、スピードの出し過ぎ、信号無視、二人乗りの危険、傘さし運転など、危険な乗り方について振り返らせる。 ■走行中の様々な危険について自分なりに考え、発言している。(発言) ◎春江小学校近辺の数ヶ所の写真を掲示する。 ◎パソコンを使ってテレビ画面に自転車事故のシミュレーションを示す。 ■身近にある危険な場所について、これから安全に過ごすための自分なりの対策を考え、ワークシートに記述している。(ワークシート) ・自分なりに危ない場面でどうすればよかったかを考えさせる。 ■写真に示された情報から、明らかな危険だけでなく、潜む危険もあることを読み取り、危ない場面ではどのように行動すればよいかについて発言やワークシートに記述している。(発言・ワークシート)
まとめ	○今日学習したことをもとに、自分の安全のためあてを設定しワークシートに記入する。	◎ヘルメットの着用についても、ワークシートの絵をもとに考えさせる。 ・めあてを日常生活に生かしていくように話す。

(3) 評価

- ・自転車に乗る場合の様々な危険について自ら考え、安全に対する意識をもつことができたか。
- ・自転車に乗るときは潜む危険があることを理解できたか。

特別活動（学級活動）学習指導案

学校名	江戸川区立春江小学校
日 時	平成25年10月25日（金） 午後1時45分から午後2時30分
場 所	4年1組教室
対 象	第4学年1組38名
授業者	下澤 久美子

1 題材名 「自転車の交通安全について考えよう。」

2 目標

Ⅱ-2 自転車の安全な利用と点検・整備

自転車の安全な利用・点検や整備について理解を深め、交通のきまり・約束等を守って安全な乗車ができるようにする。

3 児童の実態

3年生の時に自転車運転免許教室を経験し、正しい自転車の乗り方や交通ルールを学んだが、学年の中で自転車にかかわる交通事故があり、自転車の安全な乗り方や、交通ルールを守ることなどを徹底させたい。

自転車に乗って習い事や遊びに行ったりすることは、4年生にとっては日常である。

学級の児童の100%が自転車を使用しており、夕方薄暗くなる頃に乘る児童もいる。

実際に事故にあった時刻は、4時や5時で、遊び帰りの時であった。また、道がカーブしているところで、見通しが悪く安全確認が難しい場所であったことから、事故に遭わないように危険を予測する力をつける必要がある。

4 本題材と「日常的な安全指導」「定期的な安全指導」「特設する安全学習」との関連

(1) 「日常的な安全指導」との関連

朝の会・帰りの会などで、自転車で道を渡るときや横切る時には一度止まり、安全確認をすること、カーブでは見通しが悪くさらに気を付けることを指導している。

(2) 「定期的な安全指導」との関連

本校では月一回の安全指導日に、資料を基に道路標識は安全を守るために設置されていることを知らせ、安全で正しい自転車の乗り方や駐輪の仕方について考えさせたり、交差点での横断の仕方を指導したりしている。また今後、自転車の危険な乗り方とその理由を考えさせる計画をしている。

(3) 「特設する安全学習」との関連

正しい自転車の運転の仕方を学び、自転車免許証をもつことにより、交通安全意識を自覚させ、交通事故防止を図る目的で、3年生で自転車運転免許教室を設定した。

4年生では、歩行者安全教室においてシミュレータによる歩行体験を通し、交通安全の意識を高めさせた。また、警察と連携し、大型自動車のドライバーの死角についても確認させた。

以上の学習を踏まえ、自転車利用時にも、事故から身を守る方法を考えさせ、実践に結び付けていきたい。

5 目標に迫るための指導方法の工夫

- ・身近な問題として考えさせるため、実際に起こった事故を課題とする。
- ・様々な事故原因（危険）を理解させるため、自分や身近な人が事故に遭遇したことや、聞きしたことを発表させ共有する。
- ・事故原因を探らせるため、事故現場（カーブや段差）の写真を提示する。
- ・どんな危険があるかを考えさせるため、「危険な自転車の乗り方」の動画を見せる。
- ・自分の自転車の乗り方を振り返り、これからの安全な乗り方について考えさせる。

- ・危険に関する理解を深めるため、ワークシートを活用する。
- ・主な事故原因を知らせるため、「警察庁事故統計資料」を活用する。

6 本時の指導（1時間扱い）

(1) ねらい

- ・自転車利用時に潜む様々な危険について知り、事故から身を守る方法を考えさせる。
【Ⅱ-2-①②③】

(2) 展開

	○主な学習活動	◎支援・留意点 ■評価（評価方法）
導 入	○自転車による交通事故の現状を知る。 ○事故原因を考え、見通しの悪い場所やルールを守っていても事故に遭うことがあることを知る。	◎自転車による事故事例を2点紹介する。イメージをもつことができるよう写真を提示する。 ◎道路がカーブしていること、事故にあった時刻の2点が共通していることを知らせる。
展 開	○自転車に乗っていて危険な時はどんな状況の時か考える。 ○動画を見て気が付いたことを発表する。 ○自転車安全利用五則を確かめる。	◎「危険な自転車の乗り方」の動画を見せる。 ◎ワークシートに記入させ、考えををまとめさせる。 ■自転車の危険な乗り方について理解でき、適切にワークシートに記述している。 （ワークシート） ◎プリントを提示し、確かめさせる。 特に「3. 歩道は歩行者優先で、車道寄りを徐行」「4. 安全ルールを守る」はしっかり理解させ、「5. 子どもはヘルメットを着用」についてもルールが変わったことを知らせ、着用するように努力させる。
ま と め	○本時を振り返りながら、学んだ知識を自身の日常生活にどのように生かしていくかを考える。	■学習したことを踏まえ、自転車に乗る時に気を付けなければならないことについて考えワークシートに記述している。 （ワークシート）

(3) 評価

- ・様々な事故原因を知り、危険を予測し回避する正しい自転車の乗り方を考えている。

特別活動（学級活動）学習指導案

学校名	江戸川区立春江小学校
日時	平成25年10月25日（金） 午後1時45分から午後2時30分
場所	4年2組教室
対象	第4学年2組37名
授業者	金子 大輔

1 題材名 「自転車の交通安全について考えよう。」

2 目標

Ⅱ-2 自転車の安全な利用と点検・整備

自転車の安全な利用・点検や整備について理解を深め、交通のきまり・約束等を守って安全な乗車ができるようにする。

3 児童の実態

3年生の時に自転車運転免許教室を経験し、正しい自転車の乗り方や交通ルールを学んだが、学級の中で自転車にかかわる交通事故があり、自転車の安全な乗り方や、交通ルールを守ることなどを徹底させたい。

学級では1名を除いて全員が日常的に自転車に乗っている。そのうち、半数近くがこれまでにひやっとするような経験をしている。3年生の時に1名が自動車との接触事故を起こしている。他、歩行者にぶつかりそうになったなど加害者となり得る経験をしている者も若干名いる。他に、携帯電話をしながらの運転、傘をさしながらの運転、二人乗りをするなど、普段からの安全に対する意識を高める必要がある者も数名いる。

4 本題材と「日常的な安全指導」「定期的な安全指導」「特設する安全学習」との関連

(1) 「日常的な安全指導」との関連

朝の会・帰りの会などで、自転車で道を渡るときや横切る時には一度止まり、安全確認をすること、カーブでは見通しが悪くさらに気を付けることを指導している。

(2) 「定期的な安全指導」との関連

本校では月一回の安全指導日に、資料を基に道路標識は安全を守るために設置されていることを知らせ、安全で正しい自転車の乗り方や駐輪の仕方について考えさせたり、交差点での横断の仕方を指導したりしている。また今後、自転車の危険な乗り方とその理由を考えさせる計画をしている。

(3) 「特設する安全学習」との関連

正しい自転車の運転の仕方を学び、自転車免許証をもつことにより、交通安全意識を自覚させ、交通事故防止を図る目的で、3年生で自転車運転免許教室を設定した。

4年生では、歩行者安全教室においてシミュレータによる歩行体験を通し、交通安全の意識を高めさせた。また、警察と連携し、大型自動車のドライバーの死角についても確認させた。

以上の学習を踏まえ、自転車利用時にも、事故から身を守る方法を考えさせ、実践に結び付けていきたい。

5 目標に迫るための指導方法の工夫

- ・身近な問題として考えさせるため、実際に起こった事故を課題とする。
- ・様々な事故原因（危険）を理解させるため、自分や身近な人が事故に遭遇したことや、聞きししたことを発表させ共有する。

- ・事故原因を探らせるため、事故現場（カーブや段差）の写真を提示する。
- ・どんな危険があるかを考えさせるため、「危険な自転車の乗り方」の動画を見せる。
- ・自分の自転車の乗り方を振り返り、これからの安全な乗り方について考えさせる。
- ・危険に関する理解を深めるため、ワークシートを活用する。
- ・主な事故原因を知らせるため、「警察庁事故統計資料」を活用する。

6 本時の指導（1時間扱い）

(1) ねらい

- ・自転車利用時に潜む様々な危険について知り、事故から身を守る方法を考えさせる。
【Ⅱ-2-①②③】

(2) 展開

	○主な学習活動	◎支援・留意点 ■評価（評価方法）
導 入	○自転車による交通事故の現状を知る。 ○事故原因を考え、見通しの悪い場所やルールを守っていても事故に遭うことがあることを知る。	◎自転車による事故事例を2点紹介する。イメージをもつことができるよう写真を提示する。 ◎道路がカーブしていること、事故にあった時刻の2点が共通していることを知らせる。
展 開	○自転車に乗っていて危険な時はどんな状況の時か考える。 ○動画を見て気が付いたことを発表する。 ○自転車安全利用五則を確かめる。 ○自転車通行に関するクイズを行う。	◎「危険な自転車の乗り方」の動画を見せる。 ◎ワークシートに記入させ、考えををまとめさせる。 ■自転車の危険な乗り方について理解でき、適切にワークシートに記述している。（ワークシート） ◎プリントを提示し、確かめさせる。 特に「3. 歩道は歩行者優先で、車道寄りを徐行」「4. 安全ルールを守る」はしっかり理解させ、「5. 子どもはヘルメットを着用」についてもルールが変わったことを知らせ、着用するように努力させる。 ◎絵を提示しながら「○×クイズ」を実施し、自転車の安全な乗り方についての理解を深める。 （警視庁から出されている「自転車の通行方法等に関する○×クイズ」を活用する）
ま と め	○本時を振り返りながら、学んだ知識を自身の日常生活にどのように生かしていくかを考える。	■学習したことを踏まえ、自転車に乗る時に気を付けなければならないことについて考えワークシートに記述している。（ワークシート）

(3) 評価

- ・様々な事故原因を知り、危険を予測し回避する正しい自転車の乗り方を考えている。

特別活動（学級活動）学習指導案

学校名	江戸川区立春江小学校
日 時	平成25年10月25日（金） 午後1時45分から午後2時30分
場 所	4年3組教室
対 象	第4学年3組 37名
授業者	板橋 智恵

1 題材名 「自転車の交通安全について考えよう。」

2 目標

Ⅱ-2 自転車の安全な利用と点検・整備

自転車の安全な利用・点検や整備について理解を深め、交通のきまり・約束等を守って安全な乗車ができるようにする。

3 児童の実態

3年生の時に自転車運転免許教室を経験し、正しい自転車の乗り方や交通ルールを学んだが、クラスの児童の中で2件、自転車に乗っている時の交通事故があった。大きなけがにはいたらなかったが、自転車の安全な乗り方や交通ルールを守ることを徹底させ、児童の安全を守りたい。

自転車に乗って習い事に行ったり、遊びに行ったりすることが児童の日常である。そして、4年生が自転車に乗っている時刻は夕方薄暗くなる頃が多い。実際に事故にあった時刻は、4時や5時で、遊び帰りの時であった。また、道がカーブしているところや信号がない確認が厳しい場所であったことから、危険を予測する力を付けさせたい。

4 本題材と「日常的な安全指導」「定期的な安全指導」「特設する安全学習」との関連

(1) 「日常的な安全指導」との関連

朝の会・帰りの会などで、自転車で道を渡るときや横切る時には一度止まり、安全確認をすること、カーブでは見通しが悪くさらに気を付けることを指導している。

(2) 「定期的な安全指導」との関連

本校では月一回の安全指導日に、資料を基に道路標識は安全を守るために設置されていることを知らせ、安全で正しい自転車の乗り方や駐輪の仕方について考えさせたり、交差点での横断の仕方を指導したりしている。また今後、自転車の危険な乗り方とその理由を考えさせる計画をしている。

(3) 「特設する安全学習」との関連

正しい自転車の運転の仕方を学び、自転車免許証をもつことにより、交通安全意識を自覚させ、交通事故防止を図る目的で、3年生で自転車運転免許教室を設定した。

4年生では、歩行者安全教室においてシミュレータによる歩行体験を通し、交通安全の意識を高めさせた。また、警察と連携し、大型自動車のドライバーの死角についても確認させた。

以上の学習を踏まえ、自転車利用時にも、事故から身を守る方法を考えさせ、実践に結び付けていきたい。

5 目標に迫るための指導方法の工夫

- ・身近な問題として考えさせるため、実際に起こった事故を課題とする。
- ・様々な事故原因（危険）を理解させるため、自分や身近な人が事故に遭遇したことや、聞きししたことを発表させ共有する。

- ・事故原因を探らせるため、事故現場（カーブや段差）の写真を提示する。
- ・どんな危険があるかを考えさせるため、「危険な自転車の乗り方」の動画を見せる。
- ・自分の自転車の乗り方を振り返り、これからの安全な乗り方について考えさせる。
- ・危険に関する理解を深めるため、ワークシートを活用する。
- ・主な事故原因を知らせるため、「警察庁事故統計資料」を活用する。

6 本時の指導（1時間扱い）

(1) ねらい

- ・自転車利用時に潜む様々な危険について知り、事故から身を守る方法を考えさせる。
【Ⅱ-2-①②③】

(2) 展開

	○主な学習活動	◎支援・留意点 ■評価（評価方法）
導 入	○自転車による交通事故の現状を知る。 ○事故原因を考え、見通しの悪い場所やルールを守っていても事故に遭うことがあることを知る。	◎自転車による事故事例を2点紹介する。イメージをもつことができるよう写真を提示する。 ◎道路がカーブしていること、事故にあった時刻の2点が共通していることを知らせる。
展 開	○自転車に乗っていて危険な時はどんな状況の時か考える。 ○動画を見て気が付いたことを発表する。 ○自転車安全利用五則を確かめる。 ○自転車通行に関するクイズを行う。	◎「危険な自転車の乗り方」の動画を見せる。 ◎ワークシートに記入させ、考えををまとめさせる。 ■自転車の危険な乗り方について理解でき、適切にワークシートに記述している。（ワークシート） ◎プリントを提示し、確かめさせる。 特に「3. 歩道は歩行者優先で、車道寄りを徐行」「4. 安全ルールを守る」はしっかり理解させ、「5. 子どもはヘルメットを着用」についてもルールが変わったことを知らせ、着用するように努力させる。 ◎絵を提示しながら「○×クイズ」を実施し、自転車の安全な乗り方についての理解を深める。 （警視庁から出されている「自転車の通行方法等に関する○×クイズ」を活用する）
ま と め	○本時を振り返りながら、学んだ知識を自身の日常生活にどのように生かしていくかを考える。	■学習したことを踏まえ、自転車に乗る時に気を付けなければならないことについて考えワークシートに記述している。（ワークシート）

(3) 評価

- ・様々な事故原因を知り、危険を予測し回避する正しい自転車の乗り方を考えている。

特別活動（学級活動）学習指導案

学校名	江戸川区立春江小学校
日 時	平成25年10月25日（金） 午後1時45分から午後2時30分
場 所	4年4組教室
対 象	第4学年4組37名
授業者	山口 昇

1 題材名 「自転車の交通安全について考えよう。」

2 目標

Ⅱ-2 自転車の安全な利用と点検・整備

自転車の安全な利用・点検や整備について理解を深め、交通のきまり・約束等を守って安全な乗車ができるようにする。

3 児童の実態

4年生になった子供たちは、下校後の活動範囲が広がり、自転車に乗って出かけることが多くなっている。自転車を持っている割合も100%である。

そのため、3年生の時には自転車運転免許教室を行い、自転車の正しい乗り方について学習した。また、4年生になってからは、歩行シミュレーター安全教室を行い、道路の正しい歩行とともに危険の予測・回避についても学んだ。

しかし、昨年度から今年度にかけての1年半の間に、この学年では、自転車に乗っている転倒事故や自動車との接触事故が数件起きている。また、校内生活の様子を見ても、休み時間に教室や廊下を走り回る子がおり、安全に対する意識が十分高いとは言えない。

4 本題材と「日常的な安全指導」「定期的な安全指導」「特設する安全学習」との関連

(1) 「日常的な安全指導」との関連

朝の会・帰りの会などで、自転車で道を渡るときや横切る時には一度止まり、安全確認をすること、カーブでは見通しが悪くさらに気を付けることを指導している。

(2) 「定期的な安全指導」との関連

本校では月一回の安全指導日に、資料を基に道路標識は安全を守るために設置されていることを知らせ、安全で正しい自転車の乗り方や駐輪の仕方について考えさせたり、交差点での横断の仕方を指導したりしている。また今後、自転車の危険な乗り方とその理由を考えさせる計画をしている。

(3) 「特設する安全学習」との関連

正しい自転車の運転の仕方を学び、自転車免許証をもつことにより、交通安全意識を自覚させ、交通事故防止を図る目的で、3年生で自転車運転免許教室を設定した。

4年生では、歩行者安全教室においてシミュレーターによる歩行体験を通し、交通安全の意識を高めさせた。また、警察と連携し、大型自動車のドライバーの死角についても確認させた。

以上の学習を踏まえ、自転車利用時にも、事故から身を守る方法を考えさせ、実践に結び付けていきたい。

5 目標に迫るための指導方法の工夫

- ・身近な問題として考えさせるため、実際に起こった事故を課題とする。
- ・様々な事故原因（危険）を理解させるため、自分や身近な人が事故に遭遇したことや、聞きししたことを発表させ共有する。

- ・事故原因を探らせるため、事故現場（カーブや段差）の写真を提示する。
- ・どんな危険があるかを考えさせるため、「危険な自転車の乗り方」の動画を見せる。
- ・自分の自転車の乗り方を振り返り、これからの安全な乗り方について考えさせる。
- ・危険に関する理解を深めるため、ワークシートを活用する。
- ・主な事故原因を知らせるため、「警察庁事故統計資料」を活用する。

6 本時の指導（1時間扱い）

(1) ねらい

- ・自転車利用時に潜む様々な危険について知り、事故から身を守る方法を考えさせる。
【Ⅱ-2-①②③】

(2) 展開

	○主な学習活動	◎支援・留意点 ■評価（評価方法）
導 入	○自転車による交通事故の現状を知る。 ○事故原因を考え、見通しの悪い場所やルールを守っていても事故に遭うことがあることを知る。	◎自転車による事故事例を2点紹介する。イメージをもつことができるよう写真を提示する。 ◎道路がカーブしていること、事故にあった時刻の2点が共通していることを知らせる。
展 開	○自転車に乗っていて危険な時はどんな状況の時か考える。 ○動画を見て気が付いたことを発表する。 ○自転車安全利用五則を確かめる。 ○自転車通行に関するクイズを行う。	◎「危険な自転車の乗り方」の動画を見せる。 ◎ワークシートに記入させ、考えををまとめさせる。 ■自転車の危険な乗り方について理解でき、適切にワークシートに記述している。（ワークシート） ◎プリントを提示し、確かめさせる。 特に「3. 歩道は歩行者優先で、車道寄りを徐行」「4. 安全ルールを守る」はしっかり理解させ、「5. 子どもはヘルメットを着用」についてもルールが変わったことを知らせ、着用するように努力させる。 ◎絵を提示しながら「○×クイズ」を実施し、自転車の安全な乗り方についての理解を深める。 （警視庁から出されている「自転車の通行方法等に関する○×クイズ」を活用する）
ま と め	○本時を振り返りながら、学んだ知識を自身の日常生活にどのように生かしていくかを考える。	■学習したことを踏まえ、自転車に乗る時に気を付けなければならないことについて考えワークシートに記述している。（ワークシート）

(3) 評価

- ・様々な事故原因を知り、危険を予測し回避する正しい自転車の乗り方を考えている。

総合的な学習の時間学習指導案

学校名	江戸川区立春江小学校
日 時	平成25年10月25日(金) 午後1時45分から午後2時30分
場 所	5年1組教室
対 象	第5学年 1組 35名
授業者	小菅 洋次

1 題材名 「地域交通安全マップを作ろう」

2 目標

Ⅱ-4 交通事故防止と安全な生活

- ・地域の交通安全に関する諸機関や団体が行っている対策や活動を理解し、安全な交通社会を築くために、積極的に参加できるようにする。
- ・身近に潜む交通事故が起こりそうな場所を調べ、交通安全の意識を高める。

3 児童の実態

校外の活動のためにクラスで並んで道路を歩くときは、安全に気を付けて歩行している。広がって歩きがちだが、声をかければ広がらずに歩くことができる。しかし、何かに夢中になっている時や慌てている時には、周りへ注意が向いていない様子が見られることがある。また、休み時間などには廊下の曲がり角や教室の入り口から勢いよく飛び出していくことも多い。おそらく児童は、日常生活で道路を歩いたり自転車に乗ったりしている時には、他の歩行者や自転車、自動車への注意が散漫になっていたらだろうと想像される。また、危険を予測して歩行、自転車通行することは難しいであろうと思われる。

本校は学区が広く、地域の公園や友達の家へ自転車で遊びに行く児童が多い。危うく事故になりそうになったこともあり、実際に接触したケースもある。

4 本単元(題材)と「日常的な安全指導」「定期的な安全指導」「特設する安全学習」との関連 以下の安全指導を通して、本単元の目標に迫る。

- 「日常的な安全指導」としては、校外で体育の授業や活動を行う際に、安全な道の選び方、安全な歩道や横断歩道の歩き方などについて指導している。普段歩いている道路でも状況に応じて安全な歩き方ができるよう学習させている。
- 「定期的な安全指導」としては、月に1度の安全指導日に時期に応じた安全指導を行っている。学習した内容を踏まえ、実際の道路でその大切さを実感させている。
- 「特設する安全学習」としては、自転車シミュレータ教室において、自転車の安全な乗り方について学習した。フィールドワークを行うことにより、実際の道路で起こる危険の予測や安全な通行の仕方について考えさせた。

春江小学校の学区には幹線道路が通り、住宅街には見通しの悪い交差点がたくさんある。どのような場所で、どのような危険があり、どのような注意が必要なのか、この授業を通して児童に考えさせ、自分の力で危険を回避できるようにしたい。

5 目標に迫るための指導方法の工夫

- 地域の道路を教材とし、身近に起こりうる交通事故などについて考えさせる。
- 校外に出てフィールドワークを行い、危険な個所について見て確かめる。
- 学校の児童や地域の人たちに交通安全を呼びかけるために、のぼり旗を立て掛ける場所を考えさせる。

6 指導計画（9時間扱い）

時間	主な学習活動	安全教育の視点に立った留意点
1	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分たちの住んでいる地域の、交通上危険な場所について話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 自分の経験をもとに危険な場所について考えさせる。
2	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分たちの住んでいる地域の、交通上危険な場所について調べてきたことを地図で確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 見通しの悪い交差点、信号のない横断歩道、車通りの多い道路などの視点に着目させる。
3	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分たちの住んでいる地域の、交通上危険な場所についての实地調査の計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 危険なことが起こる理由を考えて予想させる。
4	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分たちの住んでいる地域の、交通上危険な場所についてのフィールドワークを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 安全確保のために、保護者に付き添いを依頼する。 ◇ フィールドワークの前に、予想を立てさせ、課題意識をもたせる。
5	<ul style="list-style-type: none"> ● フィールドワークを基に地図を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 写真やひとことカードを活用させ、分かりやすい地図作りを追及させる。
6	<ul style="list-style-type: none"> ● 調査報告についての発表計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 学校の他の学年の児童や、地域の方にも分かりやすい発表ができるよう、地図や写真を使って発表できるようにする。
7		
8		
9 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域交通安全マップ発表を行う。 ● のぼり旗を立てる場所を話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 発表を聞いて、気を付けなくてはいけない場所やその理由を考えさせる。 ◇ 特に注意を喚起しなければならない場所を考えさせる。

7 本時の指導（第9時／9時間）

(1) ねらい

- ・グループで、地域の交通事故が起こりそうな場所についてフィールドワークなどをもとに調べたり話し合ったりしたことを、家族や地域の人たちも気を付けてもらえるようにまとめて発表する。
- ・交通安全のぼりを取り付ける場所を決め、地域の方々と一緒に交通安全について考えようという意識を高める。 【Ⅱ-4-④】

(2) 展開

	○主な学習活動	◎支援・留意点 ■評価（評価方法）
導入	○本時の学習のめあてを確認する。 ・フィールドワークで分かったことを発表しよう ・交通安全のぼりを取り付ける場所を決めよう。	◎発表に仕方や聞き方を明確にする。 ◎交通安全のぼりを見せて自分たちの思いを地域に伝えることを確認する。
展開	○グループごとに危険な場所についてわかったこと、グループで話し合ったことを発表する。（全部で8グループ） ・フィールドワークで分かったことを現場で撮影した写真などを見せながら発表する。 ・危険を避けるためには何に気を付けたらよいかグループで話し合ったことを発表する。 ○学校で作成した交通安全のぼりをどこに取り付けるか話し合う。 大好き春江 守ろう広げよう交通安全 「赤信号君も止まればみんなも止まる」 「あげた手に気づくよゆうが事故なくす」 の言葉をのぼりにして地域の方々に伝えられるようにのぼりの設置場所を話し合う。	◎交通安全マップで場所を確認し、発表を聞く児童にも場所が分かるようにする。 ◎発表を聞いて気付いたことや考えたことをワークシートに記入させる。質問があれば質問させる。 ■危険なことや気を付けることについて分かるように発表している。（発表） ◎地域の方々にも危険な場所を知らせて、安全についていっしょに考えてもらえるきっかけとなるように話し合わせる。 ■地域の方々のことを考えてのぼりの設置場所を決めている。（行動観察）
まとめ	○本時の学習の振り返りをする。	◎交通事故が起こりそうな危険な場所で何に気を付ければよいか確認する。また、のぼりを取り付けることで地域の方々にもいっしょに考えてもらいたいことを確認する。

(3) 評価

- ・交通事故が起きそうな場所について気を付けなければいけないことが分かったか。
- ・地域の方々にも気を付けてもらえるように交通安全のぼりの設置場所を考えられたか。

総合的な学習の時間学習指導案

学校名	江戸川区立春江小学校
日時	平成25年10月25日(金) 午後1時45分から午後2時30分
場所	5年2組教室
対象	第5学年 2組 34名
授業者	穴井 佑未子

1 題材名 「地域交通安全マップを作ろう」

2 目標

II-4 交通事故防止と安全な生活

- ・地域の交通安全に関する諸機関や団体が行っている対策や活動を理解し、安全な交通社会を築くために、積極的に参加できるようにする。
- ・身近に潜む交通事故が起こりそうな場所を調べ、交通安全の意識を高める。

3 児童の実態

基本的に、明るくとても素直な子が多い。普段の様子を見ていると、自分たちの遊びややりたいことに、意識が集中して向かっており、周囲を意識している場面は非常に少ない。その結果、友達とぶつかりトラブルになったり、けがをしたりすることが起きている。

学校外では、学区が広いこと、また駅まで少し距離があることから、習い事や通院、友達と遊ぶ公園に行く際には自転車を使う児童が100%である。児童だけで乗っている場合もあれば、保護者と一緒に乗っている場面も多く見られる。しかし、自転車に乗る際に、子供用のヘルメットを常に着用している児童はクラスの中では1人である。

学区内には、幹線道路や高速下を走る一般道が多く、自動車やトラックなど交通量がとても多い道路がたくさんある。児童から、学区域内での事故の話や自転車等で危なかった話など聞くと、多くの情報が寄せられ、地域の危ない箇所についての認識は少しもっている。

4 本単元(題材)と「日常的な安全指導」「定期的な安全指導」「特設する安全学習」との関連

以下の安全指導を通して、本単元の目標に迫る。

- 「日常的な安全指導」としては、校外で体育の授業や活動を行う際に、安全な道の選び方、安全な歩道や横断歩道の歩き方などについて指導している。普段歩いている道路でも状況に応じて安全な歩き方ができるよう学習させている。
- 「定期的な安全指導」としては、月に1度の安全指導日に時期に応じた安全指導を行っている。学習した内容を踏まえ、実際の道路でその大切さを実感させている。
- 「特設する安全学習」としては、自転車シミュレータ教室において、自転車の安全な乗り方について学習した。フィールドワークを行うことにより、実際の道路で起こる危険の予測や安全な通行の仕方について考えさせた。

今回の授業をとおして、今一度自分たちが生活している地域には危険な場所が多くあることを確認させ、家族や地域の方々にも伝えていくことで、交通事故に気を付けて生活していこうとする気持ちを育てたい。

5 目標に迫るための指導方法の工夫

- 地域の道路を教材とし、身近に起こりうる交通事故などについて考えさせる。
- 校外に出てフィールドワークを行い、危険な箇所について見て確かめる。
- 学校の児童や地域の人たちに交通安全を呼びかけるために、のぼり旗を立て掛ける場所を考えさせる。

6 指導計画（9時間扱い）

時間	主な学習活動	安全教育の視点に立った留意点
1	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分たちの住んでいる地域の、交通上危険な場所について話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 自分の経験をもとに危険な場所について考えさせる。
2	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分たちの住んでいる地域の、交通上危険な場所について調べてきたことを地図で確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 見通しの悪い交差点、信号のない横断歩道、車通りの多い道路などの視点に着目させる。
3	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分たちの住んでいる地域の、交通上危険な場所についての实地調査の計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 危険なことが起こる理由を考えて予想させる。
4	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分たちの住んでいる地域の、交通上危険な場所についてのフィールドワークを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 安全確保のために、保護者に付き添いを依頼する。 ◇ フィールドワークの前に、予想を立てさせ、課題意識をもたせる。
5	<ul style="list-style-type: none"> ● フィールドワークを基に地図を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 写真やひとことカードを活用させ、分かりやすい地図作りを迫及させる。
6	<ul style="list-style-type: none"> ● 調査報告についての発表計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 学校の他の学年の児童や、地域の方にも分かりやすい発表ができるよう、地図や写真を使って発表できるようにする。
7		
8		
9 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域交通安全マップ発表を行う。 ● のぼり旗を立てる場所を話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 発表を聞いて、気を付けなくてはいけない場所やその理由を考えさせる。 ◇ 特に注意を喚起しなければならない場所を考えさせる。

7 本時の指導（第9時／9時間）

(1) ねらい

- ・グループで、地域の交通事故が起こりそうな場所についてフィールドワークなどをもとに調べたり話し合ったりしたことを、家族や地域の人たちも気を付けてもらえるようにまとめて発表する。
- ・交通安全のぼりを取り付ける場所を決め、地域の方々と一緒に交通安全について考えようという意識を高める。 【Ⅱ-4-④】

(2) 展開

	○主な学習活動	◎支援・留意点 ■評価（評価方法）
導入	○本時の学習のめあてを確認する。 ・フィールドワークで分かったことを発表しよう ・交通安全のぼりを取り付ける場所を決めよう。	◎発表に仕方や聞き方を明確にする。 ◎交通安全のぼりを見せて自分たちの思いを地域に伝えることを確認する。
展開	○グループごとに危険な場所についてわかったこと、グループで話し合ったことを発表する。（全部で8グループ） ・フィールドワークで分かったことを現場で撮影した写真などを見せながら発表する。 ・危険を避けるためには何に気を付けたらよいかグループで話し合ったことを発表する。 ○学校で作成した交通安全のぼりをどこに取り付けるか話し合う。 大好き春江 守ろう広げよう交通安全 「赤信号君も止まればみんなも止まる」 「あげた手に気づくよゆうが事故なくす」 の言葉をのぼりにして地域の方々に伝えられるようにのぼりの設置場所を話し合う。	◎交通安全マップで場所を確認し、発表を聞く児童にも場所が分かるようにする。 ◎発表を聞いて気付いたことや考えたことをワークシートに記入させる。質問があれば質問させる。 ■危険なことや気を付けることについて分かるように発表している。（発表） ◎地域の方々にも危険な場所を知らせて、安全についていっしょに考えてもらえるきっかけとなるように話し合わせる。 ■地域の方々のことを考えてのぼりの設置場所を決めている。（行動観察）
まとめ	○本時の学習の振り返りをする。	◎交通事故が起こりそうな危険な場所で何に気を付ければよいか確認する。また、のぼりを取り付けることで地域の方々にもいっしょに考えてもらいたいことを確認する。

(3) 評価

- ・交通事故が起きそうな場所について気を付けなければいけないことが分かったか。
- ・地域の方々にも気を付けてもらえるように交通安全のぼりの設置場所を考えられたか。

総合的な学習の時間学習指導案

学校名	江戸川区立春江小学校
日時	平成25年10月25日(金) 午後1時45分から午後2時30分
場所	5年3組教室
対象	第5学年3組 33名
授業者	柳下 昌美

1 題材名 「地域交通安全マップを作ろう」

2 目標

Ⅱ-4 交通事故防止と安全な生活

地域の交通安全に関する諸機関や団体が行っている対策や活動を理解し、安全な交通社会を築くために、積極的に参加できるようにする。

- ・ 身近に潜む交通事故が起こりそうな場所を調べ、交通安全の意識を高める。
- ・ 地域の交通事故が起こりそうな場所について調べたことを、家族や地域の人たちも気を付けてもらえるように伝える。

3 児童の実態

素直で、一つのことに集中できる子供たちである。反面、自分のやりたいことに意識がいかってしまうと、周囲への注意、意識が向いていない様子が見られる。また、休み時間などには廊下の曲がり角や教室の入り口から勢いよく飛び出していくことも多く、友達同士のトラブルや危険な目にあったことのある児童が多い。

学校外での様子を聞くと、ほとんどの児童が習い事や友達と遊ぶために自転車に乗って行動している。その中で歩行者や自動車、他の自転車との事故になった、なりそうになったという児童が多くいた。自転車に乗っているときにも、目的地への意識、今やっていることへの意識に集中し、その場その場を通行する歩行者、自動車、自転車への注意が散漫になっているのではないかと思われる。現状では、危険を予測して歩行、自転車通行することは難しいであろうと思われる。

4 本単元(題材)と「日常的な安全指導」「定期的な安全指導」「特設する安全学習」との関連 以下の安全指導を通して、本単元の目標に迫る。

- 「日常的な安全指導」としては、校外で体育の授業や活動を行う際に、安全な道の選び方、安全な歩道や横断歩道の歩き方などについて指導している。普段歩いている道路でも状況に応じて安全な歩き方ができるように学習させている。
- 「定期的な安全指導」としては、月に1度の安全指導日に時期に応じた安全指導を行っている。学習した内容を踏まえ、実際の道路でその大切さを実感させている。
- 「特設する安全学習」としては、自転車シミュレータ教室において、自転車の安全な乗り方について学習した。フィールドワークを行うことにより、実際の道路で起こる危険の予測や安全な通行の仕方について考えさせた。

春江小学校の学区には幹線道路が通り、住宅街は見通しの悪い交差点がたくさんある。幹線道路だけでなく、大型車の交通量の多い道路もある。どのような場所で、どのような危険があり、どのような注意が必要なのか、この授業を通して児童に考えさせ、自分の力で危険を回避できるようにしたい。

5 目標に迫るための指導方法の工夫

- 地域の道路を教材とし、身近に起こりうる交通事故などについて考えさせる。

- 校外に出てフィールドワークを行い、危険な個所について見て確かめる。
- 学校の児童や地域の人たちに交通安全を呼びかけるために、のぼり旗を立て掛ける場所を考えさせる。

6 指導計画（9時間扱い）

時間	主な学習活動	安全教育の視点に立った留意点
1	● 自分たちの住んでいる地域の、交通上危険な場所について話し合う。	◇ 自分の経験をもとに危険な場所について考えさせる。
2	● 自分たちの住んでいる地域の、交通上危険な場所について調べてきたことを地図で確認する。	◇ 見通しの悪い交差点、信号のない横断歩道、車通りの多い道路などの視点に着目させる。
3	● 自分たちの住んでいる地域の、交通上危険な場所についての現地調査の計画を立てる。	◇ 危険なことが起こる理由を考えて予想させる。
4	● 自分たちの住んでいる地域の、交通上危険な場所についてのフィールドワークを行う。	◇ 安全確保のために、保護者に付き添いを依頼する。 ◇ フィールドワークの前に、予想を立てさせ、課題意識をもたせる。
5	● フィールドワークを基に地図を作成する。	◇ 写真やひとことカードを活用させ、分かりやすい地図作りを追究させる。
6	● 調査報告についての発表計画を立てる。 ● グループごとに発表の練習をする。	◇ 学校の他の学年の児童や、地域の方にも分かりやすい発表ができるよう、地図や写真を使って発表できるようにする。
7		
8		
9 (本時)	● 地域交通安全マップ発表を行う。 ● のぼり旗を立てる場所を話し合う。	◇ 発表を聞いて、気を付けなくてはいけない場所やその理由を考えさせる。 ◇ 特に注意を喚起しなければならない場所を考えさせる。

7 本時の指導（第9時／9時間）

(1) ねらい

- ・グループで、地域の交通事故が起こりそうな場所についてフィールドワークなどをもとに調べたり話し合ったりしたことを、家族や地域の人たちも気を付けてもらえるようにまとめて発表する。
- ・交通安全のぼりを取り付ける場所を決め、地域の方々と一緒に交通安全について考えようという意識を高める。 【Ⅱ-4-④】

(2) 展開

	○主な学習活動	◎支援・留意点 ■評価（評価方法）
導入	○本時の学習のめあてを確認する。 ・フィールドワークで分かったことを発表しよう ・交通安全のぼりを取り付ける場所を決めよう。	◎発表に仕方や聞き方を明確にする。 ◎交通安全のぼりを見せて自分たちの思いを地域に伝えることを確認する。
展開	○グループごとに危険な場所についてわかったこと、グループで話し合ったことを発表する。（全部で8グループ） ・フィールドワークで分かったことを現場で撮影した写真などを見せながら発表する。 ・危険を避けるためには何に気を付けたらよいかグループで話し合ったことを発表する。 ○学校で作成した交通安全のぼりをどこに取り付けるか話し合う。 大好き春江 守ろう広げよう交通安全 「赤信号君も止まればみんなも止まる」 「あげた手に気づくよゆうが事故なくす」 の言葉をのぼりにして地域の方々に伝えられるようにのぼりの設置場所を話し合う。	◎交通安全マップで場所を確認し、発表を聞く児童にも場所が分かるようにする。 ◎発表を聞いて気付いたことや考えたことをワークシートに記入させる。質問があれば質問させる。 ■危険なことや気を付けることについて分かるように発表している。（発表） ◎地域の方々にも危険な場所を知らせて、安全についていっしょに考えてもらえるきっかけとなるように話し合わせる。 ■地域の方々のことを考えてのぼりの設置場所を決めている。（行動観察）
まとめ	○本時の学習の振り返りをする。	◎交通事故が起こりそうな危険な場所で何に気を付ければよいか確認する。また、のぼりを取り付けることで地域の方々にもいっしょに考えてもらいたいことを確認する。

(3) 評価

- ・交通事故が起きそうな場所について気を付けなければいけないことが分かったか。
- ・地域の方々にも気を付けてもらえるように交通安全のぼりの設置場所を考えられたか。

総合的な学習の時間学習指導案

学校名	江戸川区立春江小学校
日時	平成25年10月25日(金) 午後1時45分から午後2時30分
場所	5年4組教室
対象	第5学年 4組 35名
授業者	若山 俊彦

1 題材名 「地域交通安全マップを作ろう」

2 目標

Ⅱ-4 交通事故防止と安全な生活

- ・地域の交通安全に関する諸機関や団体が行っている対策や活動を理解し、安全な交通社会を築くために、積極的に参加できるようにする。
- ・身近に潜む交通事故が起こりそうな場所を調べ、交通安全の意識を高める。

3 児童の実態

素直な性格で、学校で行った安全指導の内容について気を付けようという意識をもてる児童が多い。また、活発な児童が多く、放課後に大勢で公園に行き遊び回る児童が多い。

今までに交通事故にあいそうになった、危ない場面を見たという児童を合わせると半数以上になる。本校は学区が広く地域の公園や友達の家へ自転車で遊びに行く児童が多い。また、習い事や買い物に行く場合も学区外の瑞江駅周辺に行くことが多いので日常的に自転車を利用している。児童の危ない体験も自転車に乗っていた時の場合が多い。

春江小学校は京葉道路、首都高速道路の下を走る一般道など交通量がとても多い道路に囲まれており、区内でも交通事故の多発地域となっている。そのような環境の中、低学年の頃から1人で自転車に乗って遊びに出かけていたという児童も多数いる。

4 本単元(題材)と「日常的な安全指導」「定期的な安全指導」「特設する安全学習」との関連

以下の安全指導を通して、本単元の目標に迫る。

- 「日常的な安全指導」としては、校外で体育の授業や活動を行う際に、安全な道の選び方、安全な歩道や横断歩道の歩き方などについて指導している。普段歩いている道路でも状況に応じて安全な歩き方ができるよう学習させている。
- 「定期的な安全指導」としては、月に1度の安全指導日に時期に応じた安全指導を行っている。学習した内容を踏まえ、実際の道路でその大切さを実感させている。
- 「特設する安全学習」としては、自転車シミュレータ教室において、自転車の安全な乗り方について学習した。フィールドワークを行うことにより、実際の道路で起こる危険の予測や安全な通行の仕方について考えさせた。

今回の授業を通して、自分たちが生活している地域には危険な場所がたくさんあることを確認させたい。また、危険な場所について家族や地域の方々にも伝えていくことで地域のみみんなで交通事故に気を付けていくという気持ちをもたせたい。

5 目標に迫るための指導方法の工夫

- 地域の道路を教材とし、身近に起こりうる交通事故などについて考えさせる。
- 校外に出てフィールドワークを行い、危険な個所について見て確かめる。
- 学校の児童や地域の人たちに交通安全を呼びかけるために、のぼり旗を立て掛ける場所を考えさせる。

6 指導計画（9時間扱い）

時間	主な学習活動	安全教育の視点に立った留意点
1	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分たちの住んでいる地域の、交通上危険な場所について話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 自分の経験をもとに危険な場所について考えさせる。
2	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分たちの住んでいる地域の、交通上危険な場所について調べてきたことを地図で確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 見通しの悪い交差点、信号のない横断歩道、車通りの多い道路などの視点に着目させる。
3	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分たちの住んでいる地域の、交通上危険な場所についての実地調査の計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 危険なことが起こる理由を考えて予想させる。
4	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分たちの住んでいる地域の、交通上危険な場所についてのフィールドワークを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 安全確保のために、保護者に付き添いを依頼する。 ◇ フィールドワークの前に、予想を立てさせ、課題意識をもたせる。
5	<ul style="list-style-type: none"> ● フィールドワークを基に地図を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 写真やひとことカードを活用させ、分かりやすい地図作りを追及させる。
6	<ul style="list-style-type: none"> ● 調査報告についての発表計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 学校の他の学年の児童や、地域の方にも分かりやすい発表ができるよう、地図や写真を使って発表できるようにする。
7		
8		
9 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域交通安全マップ発表を行う。 ● のぼり旗を立てる場所を話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 発表を聞いて、気を付けなくてはいけない場所やその理由を考えさせる。 ◇ 特に注意を喚起しなければならない場所を考えさせる。

7 本時の指導（第9時／9時間）

(1) ねらい

- ・ グループで、地域の交通事故が起こりそうな場所についてフィールドワークなどをもとに調べたり話し合ったりしたことを、家族や地域の人たちも気を付けてもらえるようにまとめて発表する。
- ・ 交通安全のぼりを取り付ける場所を決め、地域の方々と一緒に交通安全について考えようという意識を高める。 【Ⅱ-4-④】

(2) 展開

	○主な学習活動	◎支援・留意点 ■評価（評価方法）
導入	○本時の学習のめあてを確認する。 ・ フィールドワークで分かったことを発表しよう ・ 交通安全のぼりを取り付ける場所を決めよう。	◎発表に仕方や聞き方を明確にする。 ◎交通安全のぼりを見せて自分たちの思いを地域に伝えることを確認する。
展開	○グループごとに危険な場所についてわかったこと、グループで話し合ったことを発表する。（全部で8グループ） ・ フィールドワークで分かったことを現場で撮影した写真などを見せながら発表する。 ・ 危険を避けるためには何に気を付けたらよいかグループで話し合ったことを発表する。 ○学校で作成した交通安全のぼりをどこに取り付けるか話し合う。 大好き春江 守ろう広げよう交通安全 「赤信号君も止まればみんなも止まる」 「あげた手に気づくよゆうが事故なくす」 の言葉をのぼりにして地域の方々に伝えられるようにのぼりの設置場所を話し合う。	◎交通安全マップで場所を確認し、発表を聞く児童にも場所が分かるようにする。 ◎発表を聞いて気付いたことや考えたことをワークシートに記入させる。質問があれば質問させる。 ■危険なことや気を付けることについて分かるように発表している。（発表） ◎地域の方々にも危険な場所を知らせて、安全についていっしょに考えてもらえるきっかけとなるように話し合わせる。 ■地域の方々のことを考えてのぼりの設置場所を決めている。（行動観察）
まとめ	○本時の学習の振り返りをする。	◎交通事故が起こりそうな危険な場所で何に気を付ければよいか確認する。また、のぼりを取り付けることで地域の方々にもいっしょに考えてもらいたいことを確認する。

(3) 評価

- ・ 交通事故が起きそうな場所について気を付けなければいけないことが分かったか。
- ・ 地域の方々にも気を付けてもらえるように交通安全のぼりの設置場所を考えられたか。

特別活動（学級活動）学習指導案

学校名	江戸川区立春江小学校
日 時	平成25年10月25日（金） 午後1時45分から午後2時30分
場 所	6年1組 教室
対 象	第6学年1組 35名
授業者	佐藤 美佳

1 題材名 「あ、あぶない！その乗り方」

2 目標

Ⅱ-2 自転車の安全な利用と点検・整備

自転車の安全な利用・点検や整備について理解を深め、交通のきまり・約束等を守って安全な乗車ができるようにする。

3 児童の実態

平成25年9月、本学級の児童を対象として行った、自転車の乗り方に関する意識調査から次のような実態が明らかになった。

質問	回答と割合		
週にどれくらい自転車に乗りますか。	② まり乗らない	② たまに乗る	③ ほぼ毎日乗る
	3%	9%	88%
ルールを守って自転車に乗っていますか。	① ルールを守っている	② たまにルールを破ってしまう	④ まりルールを守っていない
	36%	55%	9%
自転車に乗る時に気を付けていることは何ですか。（複数回答化）	① 信号を守る	② 止まれの標識を守る	③ ヘルメットをかぶる
	82%	30%	3%
	④ スピードを出しすぎない	⑤ の日は自転車に乗らない	
	58%	6%	
自転車に乗る時についついしてしまうことは何ですか。（複数回答可）	① 信号が赤になりそうなき無理に渡った	② スピードを出して自転車をこいだ	④ 人や自転車にぶつかりそうになった
	67%	64%	58%

学級全体の9割近くが、ほぼ毎日自転車に乗っている。自転車は春江地区の高学年には、生活に欠くことのできないものである。自転車に乗るうえで気を付けていることとしては、「信号を守る」が82%で一番多く、次いで「スピードを出しすぎない」が58%であった。児童は、何が危険か分かっており、気を付けようとしていることが分かる。

しかし、実際に乗っている状況を振り返ると、半数以上が「たまにルールをやぶって」しまい、「赤になりそうなき無理に渡った」り、「スピードを出して自転車をこいだ」りしてしまっている。気を付けているつもりでも、実際には守れていないというのが実態である。また、実際に事故に遭った児童は、18%で、決して少なくはない。今の状態でいくと、児童たちが、今後事故に遭う可能性はさらに高まると思われる。

4 本題材と「日常的な安全指導」「定期的な安全指導」「特設する安全学習」との関連

- ・ 日常的な安全指導としては、近隣住民の通報などにより横並び走行などの自転車の危険な乗り方や、集団で自転車を使った危険な遊びなどを行ったことが分かったとき、随時指導している。また、体育の授業で、近くの中学校校庭に移動するとき、歩行の仕方や、交通マナー

について指導している。

- ・定期的な安全指導としては、月に1度の安全指導日に、ワークシートを用いて自転車の安全な乗り方や交通ルールについて、指導を行っている。
- ・特設する安全学習としては、救命入門コースを受講することにより、万が一事故の現場に居合わせたとき、また、自分が事故を引き起こしてしまったとき、どのように行動すればよいのかについて学習させた。

本時では自転車の正しい乗り方を確認するとともに、加害者になってしまったら、相手も自分も大変なことになってしまうことを学習することで、自分たちの自転車の乗り方を振り返り、ルールを守って安全に自転車に乗ることができるようにしていきたい。

5 目標に迫るための指導方法の工夫

- ・警視庁の「自転車の正しい乗り方(2013年度版)」をもとに、もう一度正しい乗り方の基本について確認し、自分の日頃の乗り方について振り返らせる。
- ・学生の自転車事故による賠償請求の事例の資料をもとに、自転車に乗ることで、加害者になりうる場合があることに気付かせ、運転する側の責任や安全への意識を高める。

6 本時の指導(1時間扱い)

(1) ねらい

- ・自転車の正しい乗り方について理解を深め、間違った乗り方をしないようにするという意識をもつことができる。
- ・自転車事故で加害者になった事例を基に、自分や他人の安全を守ろうという意識をもつことができる。

【Ⅱ-2-①⑤】

(2) 展開

	○主な学習活動	◎支援・留意点 ■評価（評価方法）
導入	<p>○いくつかの自転車の乗り方の例を見せ、よい乗り方か悪い乗り方か、その理由を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・並んで乗ると後ろから来る車に気付かなくて危ないから、いけない。 ・傘差し運転は周りの人に迷惑だし、片手運転で危ないからいけない。 	<p>◎自分がやってしまったり、見かけたりする乗り方を事例に上げて、自分のこととして考えることができるようにする。</p>
展開	<p>○自転車での禁止行為を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・並進・二人乗り ・携帯電話・イヤホン・ヘッドホン使用 ・傘差し運転・飲酒運転 <p>○自転車の危険な運転により加害者になってしまった子供の事例を見て、加害者になるとどうなるか理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車とぶつかることで相手が亡くなったり、相手に大きなけがをさせたりすることがあるんだ。 ・相手をけがさせてしまうと大変なことになるんだ。 	<p>◎禁止行為の絵を見せながら、身の回りによく見かける乗り方が禁止されていることを理解できるようにする。</p> <p>◎子供もが加害者になってしまった事例を映像資料で見せる。</p> <p>相手がなくなるということが相手の一生を奪ったり人生を大きく変えてしまったりすること。</p> <p>相手の家族の生活や人生も大きく変えてしまうこと自分の家族の一生にも大きく影響を与えることにつながることに気付けるような資料を用意する。</p>
まとめ	<p>○今までの自分の自転車の乗り方を振り返り、これから自転車に乗るときに気を付けていきたいことをワークシートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで横に広がって友達と自転車に乗っていたから、これからは広がらないように乗る。 ・人とぶつかりそうなことが今まであった。相手をけがさせてはいけないから安全に自転車に乗りたい。 	<p>◎自分の意見が書けるようにワークシートを用意する。</p> <p>■これから自分や他人の安全を守るために、どのように自転車に乗ればよいか考え、ワークシートに具体的に記述している。（ワークシート）</p>

(3) 評価

- ・自転車の正しい乗り方について理解を深め、間違った乗り方をしないようにするという意識をもつことができたか。
- ・自転車事故で加害者になった事例を基に、自分や他人の安全を守ろうという意識をもつことができたか。

特別活動（学級活動）学習指導案

学校名	江戸川区立春江小学校
日 時	平成25年10月25日（金） 午後1時45分から午後2時30分
場 所	6年2組 教室
対 象	第6学年2組 35名
授業者	栗原 麻美

1 題材名 「あ、あぶない！その乗り方」

2 目標

Ⅱ-2 自転車の安全な利用と点検・整備

自転車の安全な利用・点検や整備について理解を深め、交通のきまり・約束等を守って安全な乗車ができるようにする。

3 児童の実態

本指導案作成にあたり、クラスの児童の実態を把握するために、アンケートを行い下記のような結果を得た。

質問	回答と割合		
週にどれくらい自転車に乗りますか。	② まり乗らない	② たまに乗る	③ ほぼ毎日乗る
	9%	6%	85%
ルールを守って自転車に乗っていますか。	② ールを守っている	② たまにルールを破ってしまう	③ あまりルールを守っていない
	4%	65%	31%
自転車に乗る時に気を付けていることは何ですか。（複数回答可）	② 号を守る	② 止まれの標識を守る	③ ヘルメットをかぶる
	63%	9%	0%
	③ ピードを出しすぎない	⑤ 雨の日は自転車に乗らない	
	6%	33%	
自転車に乗る時についついしてしまうことは何ですか。（複数回答可）	① スピードを出した	② 確認せずに角を曲がった	③ 自転車で競走や鬼ごっこをした
	81%	81%	57%

アンケート結果より85%の児童が毎日自転車の運転をしていることが明らかになった。

しかしその中で96%の児童がルールを守れていないと回答している。「信号を守る」ことに関しては63%が意識できているが、標識やスピードを守ることなど他のことには関心が薄い。また、自転車の乗り方や目的を見ても、鬼ごっこや競走など、自分のやっている行動が危険だという認識が少ない児童が多い。また、ヘルメットをかぶっている児童は全くおらず、自分の身を守ることへの意識が低いことが分かる。自転車のルールを知ってはいても、実際には守れていないことが明らかになった。また、33%の児童が自転車の事故に遭ったことがあると回答している。この学習を通し、自己の行動と危険な行動との関連を考えさせたい。

4 本題材と「日常的な安全指導」「定期的な安全指導」「特設する安全学習」との関連

- ・日常的な安全指導としては、近隣住民の通報などにより横並び走行などの自転車の危険な乗り方や、集団で自転車を使った危険な遊びなどを行ったことが分かったとき、随時指導している。また、体育の授業で、近くの中学校校庭に移動するとき、歩行の仕方や、交通マナーについて指導している。

- ・定期的な安全指導としては、月に1度の安全指導日に、ワークシートを用いて自転車の安全な乗り方や交通ルールについて、指導を行っている。
- ・特設する安全学習としては、救命入門コースを受講することにより、万が一事故の現場に居合わせたとき、また、自分が事故を引き起こしてしまったとき、どのように行動すればよいのかについて学習させた。

本時では自転車の正しい乗り方を確認するとともに、加害者になってしまったら、相手も自分も大変なことになってしまうことを学習することで、自分たちの自転車の乗り方を振り返り、ルールを守って安全に自転車に乗ることができるようにしていきたい。

5 目標に迫るための指導方法の工夫

- ・警視庁の「自転車の正しい乗り方(2013年度版)」をもとに、もう一度正しい乗り方の基本について確認し、自分の日頃の乗り方について振り返らせる。
- ・学生の自転車事故による賠償請求の事例の資料をもとに、自転車に乗ることで、加害者になりうる場合があることに気付かせ、運転する側の責任や安全への意識を高める。

6 本時の指導（1時間扱い）

(1) ねらい

- ・自転車の正しい乗り方について理解を深め、間違った乗り方をしないようにするという意識をもつことができる。
- ・自転車事故で加害者になった事例を基に、自分や他人の安全を守ろうという意識をもつことができる。

【Ⅱ-2-①⑤】

(2) 展開

	○主な学習活動	◎支援・留意点 ■評価 (評価方法)
導入	<p>○いくつかの自転車の乗り方の例を見せ、よい乗り方が悪い乗り方か、その理由を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・並んで乗ると後ろから来る車に気付かなくて危ないから、いけない。 ・傘差し運転は周りの人に迷惑だし、片手運転で危ないからいけない。 	<p>◎自分がやっちゃったり、見かけたりする乗り方を事例に上げて、自分のこととして考えることができるようにする。</p>
展開	<p>○自転車での禁止行為を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・並進・二人乗り ・携帯電話・イヤホン・ヘッドホン使用 ・傘差し運転・飲酒運転 <p>○自転車の危険な運転により加害者になってしまった子供の事例を見て、加害者になるとどうなるか理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車とぶつかることで相手が亡くなったり、相手に大きなけがをさせてしまったりすることがあるんだ。 ・相手をけがさせてしまうと大変なことになるんだ。 	<p>◎禁止行為の絵を見せながら、身の回りでよく見かける乗り方が禁止されていることを理解できるようにする。</p> <p>◎子供もが加害者になってしまった事例を映像資料で見せる。</p> <p>相手がなくなるということが 相手の一生を奪ったり人生を大きく変えてしまったりすること。 相手の家族の生活や人生も大きく変えてしまうこと 自分の家族の一生にも大きく影響を与えること につながることに気付けるような資料を用意する。</p>
まとめ	<p>○今までの自分の自転車の乗り方を振り返り、これから自転車に乗るときに気を付けていきたいことをワークシートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで横に広がって友達と自転車に乗っていたから、これからは広がらないように乗る。 ・人とぶつかりそうなことが今まであった。相手をけがさせてはいけないから安全に自転車に乗りたい。 	<p>◎自分の意見が書けるようにワークシートを用意する。</p> <p>■これから自分や他人の安全を守るために、どのように自転車に乗ればよいか考え、ワークシートに具体的に記述している。(ワークシート)</p>

(3) 評価

- ・自転車の正しい乗り方について理解を深め、間違った乗り方をしないようにするという意識をもつことができたか。
- ・自転車事故で加害者になった事例を基に、自分や他人の安全を守ろうという意識をもつことができたか。

特別活動（学級活動）学習指導案

学校名	江戸川区立春江小学校
日時	平成25年10月25日（金） 午後1時45分から午後2時30分
場所	6年3組 教室
対象	第6学年3組 34名
授業者	尾形 寛

1 題材名 「あ、あぶない！その乗り方」

2 目標

Ⅱ-2 自転車の安全な利用と点検・整備

自転車の安全な利用・点検や整備について理解を深め、交通のきまり・約束等を守って安全な乗車ができるようにする。

3 児童の実態

本指導案作成にあたり、クラスの児童の実態を把握するために、アンケートを行い左記のような結果を得た。

質問	回答と割合		
週にどれくらい自転車に乗りますか。	①あまり乗らない	②たまに乗る	③ほぼ毎日乗る
	9%	14%	77%
ルールを守って自転車に乗っていますか。	①ルールを守っている	②たまにルールを破ってしまう	③あまりルールを守っていない
	17%	20%	63%
自転車に乗る時に気を付けていることは何ですか。（複数回答可）	①信号を守る	②止まれの標識を守る	③ヘルメットをかぶる
	89%	23%	0%
	④スピードを出しすぎない	⑤雨の日は自転車に乗らない	
	6%	23%	
自転車に乗る時についしてしまうことは何ですか。（複数回答可）	①スピードを出した	②確認せずに角を曲がった	③自転車で競走や鬼ごっこをした
	86%	54%	83%

アンケート結果より8割弱の児童が毎日自転車の運転をしていることが明らかになった。しかし自転車運転時にルールを守るという意識はそれほど高いとは言えない。6割の児童が「あまり守っていない」と答えている。そんな中、自転車の乗り方に関しては、その内容により大きく意識の差が見られた。「信号を守る」ことに関しては意識できているが、標識など他のことには関心が薄く、また、自転車の乗り方や目的を見ても、スピードを出したり、鬼ごっこや競走などをしたりして、自分のやっている行動が危険だという認識が少ない児童が多いことが分かった。この学習を通し、自己の行動と危険な行動との関連を考えさせたい。

4 本題材と「日常的な安全指導」「定期的な安全指導」「特設する安全学習」との関連

- ・ 日常的な安全指導としては、近隣住民の通報などにより横並び走行などの自転車の危険な乗り方や、集団で自転車を使った危険な遊びなどを行ったことが分かったとき、随時指導している。また、体育の授業で、近くの中学校校庭に移動するとき、歩行の仕方や、交通マナーについて指導している。
- ・ 定期的な安全指導としては、月に1度の安全指導日に、ワークシートを用いて自転車の安全な乗り方

や交通ルールについて、指導を行っている。

- ・特設する安全学習としては、救命入門コースを受講することにより、万が一事故の現場に居合わせたとき、また、自分が事故を引き起こしてしまったとき、どのように行動すればよいのかについて学習させた。

本時では自転車の正しい乗り方を確認するとともに、加害者になってしまったら、相手も自分も大変なことになってしまうことを学習することで、自分たちの自転車の乗り方を振り返り、ルールを守って安全に自転車に乗ることができるようにしていきたい。

5 目標に迫るための指導方法の工夫

- ・警視庁の「自転車の正しい乗り方(2013年度版)」をもとに、もう一度正しい乗り方の基本について確認し、自分の日頃の乗り方について振り返らせる。
- ・学生の自転車事故による賠償請求の事例の資料をもとに、自転車に乗ることで、加害者になりうる場合があることに気付かせ、運転する側の責任や安全への意識を高める。

6 本時の指導（1時間扱い）

(1) ねらい

- ・自転車の正しい乗り方について理解を深め、間違っただ乗り方をしないようにするという意識をもつことができる。
- ・自転車事故で加害者になった事例を基に、自分や他人の安全を守ろうという意識をもつことができる。

【Ⅱ-2-①⑤】

学習目標	指導方法	評価方法	評価項目
自転車の正しい乗り方を理解し、実践できる。	ビデオ視聴、実演、質問応答	観察、質問応答	正しい乗り方を理解し、実践している。
自転車事故で加害者になった事例を基に、自分や他人の安全を守ろうという意識をもつことができる。	事例の読み取り、話し合い	話し合いの参加、発言内容	事例を基に、自分や他人の安全を守ろうという意識をもつことができる。

(2) 展開

	○主な学習活動	◎支援・留意点 ■評価（評価方法）
導入	<p>○いくつかの自転車の乗り方の例を見せ、よい乗り方が悪い乗り方か、その理由を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・並んで乗ると後ろから来る車に気付かなくて危ないから、いけない。 ・傘差し運転は周りの人に迷惑だし、片手運転で危ないからいけない。 	<p>◎自分がやっちゃったり、見かけたりする乗り方を事例に上げて、自分のこととして考えることができるようにする。</p>
展開	<p>○自転車での禁止行為を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・並進・二人乗り ・携帯電話・イヤホン・ヘッドホン使用 ・傘差し運転・飲酒運転 <p>○自転車の危険な運転により加害者になってしまった子供の事例を見て、加害者になるとどうなるか理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車とぶつかることで相手が亡くなったり、相手に大きなけがをさせてしまったりすることがあるんだ。 ・相手をけがさせてしまうと大変なことになるんだ。 	<p>◎禁止行為の絵を見せながら、身の回りでよく見かける乗り方が禁止されていることを理解できるようにする。</p> <p>◎子供もが加害者になってしまった事例を映像資料で見せる。</p> <p>相手がなくなるということが 相手の一生を奪ったり人生を大きく変えてしまったりすること。 相手の家族の生活や人生も大きく変えてしまうこと 自分の家族の一生にも大きく影響を与えること につながることに気付けるような資料を用意する。</p>
まとめ	<p>○今までの自分の自転車の乗り方を振り返り、これから自転車に乗るときに気を付けていきたいことをワークシートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで横に広がって友達と自転車に乗っていたから、これからは広がらないように乗る。 ・人とぶつかりそうなことが今まであった。相手をけがさせてはいけないから安全に自転車に乗りたい。 	<p>◎自分の意見が書けるようにワークシートを用意する。</p> <p>■これから自分や他人の安全を守るために、どのように自転車に乗ればよいか考え、ワークシートに具体的に記述している。(ワークシート)</p>

(3) 評価

- ・自転車の正しい乗り方について理解を深め、間違った乗り方をしないようにするという意識をもつことができたか。
- ・自転車事故で加害者になった事例を基に、自分や他人の安全を守ろうという意識をもつことができたか。

特別活動（学級活動）学習指導案

学校名 江戸川区立春江小学校
 日 時 平成25年10月25日（金）
 午後1時45分から午後2時30分
 場 所 6年4組 教室
 対 象 第6学年4組 34名
 授業者 和田 悠史

1 単元名・題材名 「あ、あぶない！ その乗り方」

2 目標

Ⅱ-2 自転車の安全な利用と点検・整備

自転車の安全な利用・点検や整備について理解を深め、交通のきまり・約束等を守って安全な乗車ができるようにする。

3 児童の実態

質問	回答と割合		
週にどれくらい自転車に乗りですか。	① あまり乗らない 6%	② たまに乗る 17%	③ ほぼ毎日乗る 77%
ルールを守って自転車に乗っていますか。	① ルールを守っている 38%	② たまにルールを破ってしまう 47%	③ あまりルールを守っていない 15%
自転車に乗る時に気を付けていることは何ですか。（複数回答可）	① 信号を守る 76%	② 止まれの標識を守る 35%	③ ヘルメットをかぶる 0%
	④ スピードを出しすぎない 38%	⑤ 雨の日は自転車に乗らない 38%	⑥ 日常的に点検をしている 38%
自転車に乗る時についてしまうことは。（複数回答可）	① スピードを出した 59%	② 人や自転車にぶつかった 23%	③ 自転車で競走や鬼ごっこをした 44%

本指導案作成にあたり、クラスの児童の実態を把握するために、アンケートを行い左記のような結果を得た。

アンケートの結果から、信号を守ったり、点検を日常的に行っていたりするなど、ルールを守って安全に自転車に乗ろうと意識している児童は多いが、一方でつい危ない運転をしてしまう児童がとて多いことがわかった。

スピードを出して運転をしたり、友達と自転車で競走をしたり、無理な運転をして人とぶつかったりした経験がある児童が少なからずいた。

自転車は便利な乗り物で、自動車運転のように厳しく取り締まられることがあまりないため、自己の判断で大丈夫と思った時に違反をしているようである。

4 本題材と「日常的な安全指導」「定期的な安全指導」「特設する安全学習」との関連

- ・日常的な安全指導としては、近隣住民の通報などにより横並び走行などの自転車の危険な乗り方や、集団で自転車を使った危険な遊びなどを行ったことが分かったとき、随時指導している。また、体育の授業で、近くの中学校校庭に移動するとき、歩行の仕方や、交通マナーについて指導している。
- ・定期的な安全指導としては、月に1度の安全指導日に、ワークシートを用いて自転車の安全な乗り方や交通ルールについて、指導を行っている。

- ・特設する安全学習としては、救命入門コースを受講することにより、万が一事故の現場に居合わせたとき、また、自分が事故を引き起こしてしまったとき、どのように行動すればよいのかについて学習させた。

本時では自転車の正しい乗り方を確認するとともに、加害者になってしまったら、相手も自分も大変なことになってしまうことを学習することで、自分たちの自転車の乗り方を振り返り、ルールを守って安全に自転車に乗ることができるようにしていきたい。

5 目標に迫るための指導方法の工夫

- ・警視庁の「自転車の正しい乗り方(2013年度版)」をもとに、もう一度正しい乗り方の基本について確認し、自分の日頃の乗り方について振り返らせる。
- ・学生の自転車事故による賠償請求の事例の資料をもとに、自転車に乗ることで、加害者になりうる場合があることに気付かせ、運転する側の責任や安全への意識を高める。

6 本時の指導（1時間扱い）

(1) ねらい

- ・自転車の正しい乗り方について理解を深め、間違った乗り方をしないようにするという意識をもつことができる。
- ・自転車事故で加害者になった事例を基に、自分や他人の安全を守ろうという意識をもつことができる。

【Ⅱ-2-①⑤】

(2) 展開

	○主な学習活動	◎支援・留意点 ■評価 (評価方法)
導入	<p>○いくつかの自転車の乗り方の例を見せ、よい乗り方か悪い乗り方か、その理由を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・並んで乗ると後ろから来る車に気付かなくて危ないから、いけない。 ・傘差し運転は周りの人に迷惑だし、片手運転で危ないからいけない。 	<p>◎自分がやってしまったり、見かけたりする乗り方を事例に上げて、自分のこととして考えることができるようにする。</p>
展開	<p>○自転車での禁止行為を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・並進・二人乗り ・携帯電話・イヤホン・ヘッドホン使用 ・傘差し運転・飲酒運転 <p>○自転車の危険な運転により加害者になってしまった子供の事例を見て、加害者になるとどうなるか理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車とぶつかることで相手が亡くなったり、相手に大きなけがをさせたりすることがあるんだ。 ・相手をけがさせてしまうと大変なことになるんだ。 	<p>◎禁止行為の絵を見せながら、身の回りでよく見かける乗り方が禁止されていることを理解できるようにする。</p> <p>◎子供もが加害者になってしまった事例を映像資料で見せる。</p> <p>相手がなくなるということが相手の一生を奪ったり人生を大きく変えてしまったりすること。</p> <p>相手の家族の生活や人生も大きく変えてしまうこと自分の家族の一生にも大きく影響を与えることにつながることに気付けるような資料を用意する。</p>
まとめ	<p>○今までの自分の自転車の乗り方を振り返り、これから自転車に乗るときに気を付けていきたいことをワークシートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで横に広がって友達と自転車に乗っていたから、これからは広がらないように乗る。 ・人とぶつかりそうなことが今まであった。相手をけがさせてはいけないから安全に自転車に乗りたい。 	<p>◎自分の意見が書けるようにワークシートを用意する。</p> <p>■これから自分や他人の安全を守るために、どのように自転車に乗ればよいか考え、ワークシートに具体的に記述している。(ワークシート)</p>

(3) 評価

- ・自転車の正しい乗り方について理解を深め、間違った乗り方をしないようにするという意識をもつことができたか。
- ・自転車事故で加害者になった事例を基に、自分や他人の安全を守ろうという意識をもつことができたか。

